

インストールガイド

# Novell<sup>®</sup> ZENworks<sup>®</sup> 10 Configuration Management SP3

10.3

2010年3月30日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2010 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation/) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 システム要件</b>	<b>9</b>
1.1 プライマリサーバ要件	9
1.2 サテライト要件	15
1.2.1 サテライトの役割を実行する Windows デバイス	15
1.2.2 サテライトの役割を実行する Linux デバイス	16
1.3 管理ゾーンのバージョン要件	19
1.4 データベースの要件	21
1.5 LDAP ディレクトリ要件	22
1.6 管理対象デバイス要件	22
1.7 インベントリのみデバイス要件	26
1.8 管理ブラウザ要件	29
1.9 インストールユーザの要件	29
<b>2 その他の ZENworks 製品との共存</b>	<b>31</b>
2.1 ZENworks Desktop Management	31
2.2 ZENworks Asset Management	32
2.3 ZENworks Patch Management	32
2.4 ZENworks サーバ管理	32
2.5 ZENworks Linux Management	32
2.6 ZENworks Handheld Management	33
<b>3 準備</b>	<b>35</b>
3.1 ZENworks インストールの理解	35
3.2 インストール情報の収集	36
3.3 プレインストールタスク	36
3.3.1 最小要件を満たしているかの確認	37
3.3.2 ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成	37
3.3.3 外部認証局の作成	38
3.3.4 外部 ZENworks データベースのインストール	40
3.3.5 Mono 2.0.1-1.17 の SLES 11 へのインストール	49
<b>4 ZENworks サーバのインストール</b>	<b>51</b>
4.1 インストールの実行	51
4.1.1 インストール情報	54
4.2 無干渉インストールの実行	63
4.2.1 レスポンスファイルの作成	64
4.2.2 インストールの実行	65
4.3 インストール後のタスク	67

<b>5 ZENworks Adaptive Agent の Windows へのインストール</b>	<b>71</b>
<b>6 ZENworks Adaptive Agent の Linux へのインストール</b>	<b>73</b>
<b>7 ZENworks ソフトウェアのアンインストール</b>	<b>75</b>
7.1 ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序 . . . . .	75
7.2 Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール . . . . .	76
7.3 Linux プライマリサーバのアンインストール . . . . .	80
7.3.1 ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する	80
7.3.2 デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする . . . . .	81
7.4 ZENworks 10 Configuration Management SP3 Linux サテライトのアンインストール . . . . .	82
7.4.1 ゾーンレベルでのアンインストール . . . . .	82
7.4.2 ローカルアンインストール . . . . .	84
<b>A インストール実行可能引数</b>	<b>87</b>
<b>B トラブルシューティング</b>	<b>89</b>
B.1 インストールのトラブルシューティング . . . . .	89
B.2 アンインストールのエラーメッセージ . . . . .	94
<b>C マニュアルの更新</b>	<b>97</b>
C.1 2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3) . . . . .	97

# このガイドについて

この『ZENworks 10 インストールガイド』には、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 システムをインストールする際に役立つ情報が記載されています。

ZENworks 10 Configuration Management SP3 は、サポートされている仮想インフラストラクチャに展開できるソフトウェアアプライアンスとしても使用できます。このソフトウェアアプライアンスは、カスタマイズされた SUSE® Linux Enterprise Server 10 SP2 (SLES 10 SP2) 上に構築され、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Server および ZENworks 10 Configuration Management SP3 ZENworks Reporting Server とともにプレインストールされます。

ZENworks Appliance を展開および管理する方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Appliance Deployment and Administration リファレンス』を参照してください。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 9 ページの第 1 章「システム要件」
- ◆ 31 ページの第 2 章「その他の ZENworks 製品との共存」
- ◆ 35 ページの第 3 章「準備」
- ◆ 51 ページの第 4 章「ZENworks サーバのインストール」
- ◆ 71 ページの第 5 章「ZENworks Adaptive Agent の Windows へのインストール」
- ◆ 73 ページの第 6 章「ZENworks Adaptive Agent の Linux へのインストール」
- ◆ 75 ページの第 7 章「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」
- ◆ 87 ページの付録 A「インストール実行可能引数」
- ◆ 89 ページの付録 B「トラブルシューティング」
- ◆ 97 ページの付録 C「マニュアルの更新」

## 対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Configuration Management のドキュメント \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/\)](http://www.novell.com/documentation/zcm10/) を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (\\) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

# システム要件

次のセクションでは、ハードウェアとソフトウェアに関する Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 の要件について説明しています。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「プライマリサーバ要件」
- ◆ 15 ページのセクション 1.2 「サテライト要件」
- ◆ 19 ページのセクション 1.3 「管理ゾーンのバージョン要件」
- ◆ 21 ページのセクション 1.4 「データベースの要件」
- ◆ 22 ページのセクション 1.5 「LDAP ディレクトリ要件」
- ◆ 22 ページのセクション 1.6 「管理対象デバイス要件」
- ◆ 26 ページのセクション 1.7 「インベントリのみデバイス要件」
- ◆ 29 ページのセクション 1.8 「管理ブラウザ要件」
- ◆ 29 ページのセクション 1.9 「インストールユーザの要件」

## 1.1 プライマリサーバ要件

プライマリサーバソフトウェアをインストールするサーバは、次の要件を満たしている必要があります。

表 1-1 プライマリサーバ要件

項目	要件	追加の詳細
サーバ使用方法	サーバは、プライマリサーバが ZENworks 10 Configuration Management に対して実行するタスク以外のタスクも処理することができますが、プライマリサーバソフトウェアをインストールするサーバは、ZENworks 10 Configuration Management の作業目的でのみ使用することを推奨します。	たとえば、サーバで次の項目を実行したくない場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell eDirectory のホスト™</li> <li>◆ Novell Client32™ のホスト</li> <li>◆ Active Directory のホスト*</li> <li>◆ 端末サーバとする</li> </ul>

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム	<p>Windows*:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows Server 2003 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 R2 x86-64 (Enterprise エディション、Standard エディション)</li> </ul> <p>Linux*:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SUSE® Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) SP1 / SP2 / SP3 x86、x86-64 (Intel* プロセッサ、AMD* Opteron* プロセッサ)</li> <li>◆ Open Enterprise Server 2 (OES 2) SP1 / SP2 x86、x86-64</li> <li>◆ SLES 11 x86、x86-64 (Intel および AMD Opteron プロセッサ)</li> </ul>	<p>Windows Server 2003 および Windows Server 2008 の Core Edition および Data Center Edition はすべて、プライマリサーバプラットフォームではサポートされていません。Windows Server 2008 Core は .NET Framework をサポートしていないため、サポートされていません。</p> <p>ZENworks 10 Configuration Management は、Hyper-V の有無にかかわらず、Windows Server 2003 および Windows Server 2008 エディションでサポートされています。</p> <hr/> <p><b>重要:</b> ZENworks Reporting Server をプライマリサーバにインストールする場合は、SLES 10、OES 2、Windows Server 2003、または Windows Server 2008 のいずれかのプラットフォームにインストールする必要があります。ZENworks Reporting Server は、現在、SLES 11 と Windows Server 2008 R2 ではサポートされていません。詳細については、<a href="http://www.novell.com/support/microsites/microsite.do">Novell Support Web サイト (http://www.novell.com/support/microsites/microsite.do)</a> で TID 7004794 を参照してください。</p>
ハードウェア	<p><b>プロセッサ:</b> 最小 - Pentium* IV 2.8GHz (x86 および x86-64)、または相当する AMD または Intel プロセッサ</p> <p>プライマリサーバがパッチ管理を実行している場合は、Intel Core* Duo プロセッサなどの高速なプロセッサをお勧めします。</p> <hr/> <p><b>RAM:</b> 2GB(最小)、4GB(推奨)</p>	

項目	要件	追加の詳細
	<p><b>ディスク容量</b> : インストールの場合 3 GB( 最小 )、実行の場合 4GB( 推奨 ) 配布する必要のあるコンテンツの量によって、この数値は大きく異なります。</p> <p>パッチ管理ファイルストレージ ( ダウンロードされたパッチコンテンツ ) には、少なくとも 25GB の追加空き容量が必要です。パッチ管理が有効な場合、すべてのコンテンツレプリケーションサーバにも、同じ容量の追加空き容量が必要です。パッチ管理を別の言語で使用している場合、各サーバにも使用する言語ごとにこのサイズの追加容量が必要です。</p>	<p>ZENworks データベースファイルおよび ZENworks コンテンツリポジトリは非常に大きくなる可能性があるため、別のパーティションまたはハードディスクを用意することが必要になる場合があります。</p> <p>Windows サーバでデフォルトのコンテンツリポジトリの場所を変更する情報については、『<a href="#">ZENworks 10 Configuration Management System Administration リファレンス</a>』の「<a href="#">コンテンツリポジトリ</a>」を参照してください。</p> <p>Linux サーバの場合は、/var/opt ディレクトリを大容量のパーティションに配置することをお勧めします。このディレクトリにはデータベース ( 組み込まれている場合 ) およびコンテンツリポジトリが格納されません。</p>
	<p><b>画面解像度</b> : 1024×768、256 色 ( 最小要件 )</p>	
ホスト名の解決	<p>サーバは適切に設定した DNS を使用してデバイスのホスト名を解決する必要があります。デバイスのホスト名を解決しないと、ZENworks の一部の機能は適切に機能しません。</p> <p>サーバ名は DNS 要件 ( 名前に下線が含まれていないなど ) を満たしている必要があります。満たしていない場合、ZENworks のログインが失敗します。使用できる文字は文字 a-z ( 大文字および小文字 )、数字、およびハイフン (-) です。</p>	
IP アドレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。</li> <li>◆ IP アドレスはターゲットサーバのすべての NIC にバインドされる必要があります。</li> </ul>	<p>IP アドレスがバインドされていない NIC を使用しようとする、インストールはハングします。</p>

項目	要件	追加の詳細
Microsoft .NET (Windows のみ)	ZENworks 10 Configuration Management をインストールするには、Windows のプライマリサーバに Microsoft* .NET 2.0 ソフトウェアと最新アップデートをインストールして実行している必要があります。	<p>ZENworks のインストール中に .NET インストールを開始するオプションがあります。オプションを選択すると、.NET 2.0 がインストールされます。パフォーマンスと安定性を高めるには、Windows 自動更新またはエージェントのパッチ管理で、.NET 2.0 の最新のサポートパックとパッチにアップグレードしてください。</p> <p>.NET 2.0 SP2 は Windows Server 2003 と Windows Server 2008 で Microsoft がサポートする最新バージョンです。Windows Server 2003 では、.NET 2.0 SP2 を直接ダウンロードしてインストールしたり、.NET 2.0 SP2 を含む .NET 3.5 SP1 にアップグレードできます。Windows Server 2008 では、.NET 3.5 SP1 にアップグレードして .NET 2.0 SP2 アップデートをインストールする必要があります。</p>
Mono (SLES 11 のみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SLES 11 プライマリサーバには Mono<sup>®</sup> 1.17-11 がインストールされている必要があります。</li> <li>◆ 次のRPMパッケージをLinuxプライマリサーバにインストールする必要があります。</li> </ul> <p>libgdiplus0 mono-core</p>	<p>ZENworks のインストール時に Mono をインストールするか、<a href="http://www.go-mono.com/mono-downloads/download.html">Mono ダウンロードの Web サイト (http://www.go-mono.com/mono-downloads/download.html)</a> から推奨の Mono バージョンと RPM パッケージをダウンロードするか選択できます。</p>

項目	要件	追加の詳細
ファイアウォール 設定 :TCP ポート	80 と 443	<p>ポート 80 は Tomcat の非セキュアポート用です。</p> <p>ポート 443 は Tomcat のセキュアポート用です。NCC からのシステムアップデートのダウンロードと、PRU(Product Recognition Update) のダウンロードにもデフォルトで使用されます。</p> <p>プライマリサーバはパッチライセンスに係る情報とチェックサムデータを HTTPS(ポート 443) でダウンロードし、実際のパッチコンテンツファイルを HTTP(ポート 80) でダウンロードします。ZENworks Patch Management ライセンス情報は <a href="http://novell.patchlink.com">Lumension* ライセンスサーバ (http://novell.patchlink.com)</a> から取得され、パッチコンテンツとチェックサムデータは AKAMAI がホストするコンテンツ配布ネットワーク (<a href="http://novell.cdn.lumension.com">novell.cdn.lumension.com</a>) から取得されます。パッチコンテンツ配布ネットワークはキャッシュサーバの大規模な耐障害性ネットワークであるため、これらのアドレスへのアウトバンド接続をファイアウォールルールで許可する必要があります。</p> <p>ポート 443 は CASA 認証にも使用されます。このポートを開くことで、ZENworks Configuration Management はファイアウォール外部のデバイスを管理できるようになります。このポートで ZENworks サーバと管理対象デバイス上の ZENworks エージェント間の通信を常に許可するように、ネットワークを設定することをお勧めします。</p> <p>Apache などのその他のサービスがポート 80 および 443 で実行されている場合、または OES2 によって使用されている場合、インストールプログラムでは使用する新しいポートを指定するよう求められます。</p> <hr/> <p><b>重要 :</b> AdminStudio 9.0 ZENworks Edition を使用する予定の場合、プライマリサーバがポート 80 および 443 を使用している必要があります。</p>
	2645	<p>CASA 認証で使用されます。このポートを開くことで、ZENworks Configuration Management はファイアウォール外部のデバイスを管理できるようになります。このポートで ZENworks サーバと管理対象デバイス上の ZENworks エージェント間の通信を常に許可するように、ネットワークを設定することをお勧めします。</p>

項目	要件	追加の詳細
	5550	リモート管理リスナがデフォルトで使用します。ZENworks コントロールセンターの [リモート管理リスナ] ダイアログボックスで、このポートを変更できます。
	5750	リモート管理プロキシが使用します。
	5950	デフォルトでリモート管理サービスで使用されます。このポートは、ZENworks コントロールセンターのリモート管理設定ページの [リモート管理設定] パネルで変更できます。
	7628	Adaptive Agent で使用されます。
	8005	Tomcat でシャットダウン要求のリスンに使用されます。これはローカルポートで、リモートでアクセスできません。
	8009	Tomcat AJP コネクタで使用されます。
ファイアウォール設定 :UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行していない場合に使用します。
	69	イメージング TFTP で使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。
	997	イメージングサーバがマルチキャストに使用します。
	1761	ルータのポート 1761 は、Wake-On-LAN に対するサブネット向けブロードキャストマジックパケットの転送に使用されます。
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行している場合に使用します。ファイアウォールは、Proxy DHCP Service へのブロードキャストトラフィックを許可するように設定する必要があります。
	13331	zmgpreboot ポリシーで使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。
仮想マシン環境	ZENworks Configuration Management サーバソフトウェアは、次の仮想マシン環境でインストールできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ VMware ワークステーション</li> <li>◆ Microsoft Virtual Server</li> <li>◆ XEN (Novell SLES 10 および Citrix XenServer)</li> <li>◆ VMWare ESX</li> <li>◆ Windows 2008 Hyper Visor</li> </ul>	VMware ESX 3.5 上で SLES 10 32 ビットゲスト OS を使用している場合は、VMI カーネルを使用しないでください。詳細については、 <a href="http://support.novell.com/search/kb_index.jsp">Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)</a> で TID 7002789 を参照してください。

---

注：プライマリサーバが NAT ファイアウォールの内部にある場合は、インターネットまたは公衆ネットワーク上のデバイスは通信できません。

---

## 1.2 サテライト要件

サテライトは ZENworks プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できるデバイスです。サテライトは、管理対象デバイス (Windows) であっても、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた非管理対象デバイス (Linux) であっても構いません。

詳細情報については、次のセクション参照してください。

- 15 ページのセクション 1.2.1 「サテライトの役割を実行する Windows デバイス」
- 16 ページのセクション 1.2.2 「サテライトの役割を実行する Linux デバイス」

### 1.2.1 サテライトの役割を実行する Windows デバイス

通常の機能のほか、Windows デバイスをサテライトとして使用できます。これらの管理対象デバイスをサテライトとして使用する場合は、これらのデバイスがサテライト機能を実行できることを確認してください。

サテライトの役割を実行する Windows デバイスは、22 ページのセクション 1.6 「管理対象デバイス要件」のリストに表示された Windows 管理対象デバイスの最小要件を満たす必要がありますが、次の例外があります。

- Windows Embedded XP は、サテライトデバイスとしてサポートされたワークステーションオペレーティングシステムではありません。
- サテライトデバイスでは、TCP および UDP ポートを余分に開く必要があります。

次のテーブルは、サテライトデバイスで追加で開く必要がある TCP および UDP ポートを示します。

表 1-2 サテライトの役割を実行する管理対象デバイスに必要な追加ポート

項目	要件	追加の詳細
ファイアウォール設定 :TCP ポート	80	ポートは、親プライマリサーバで使用される HTTP ポートと同じにする必要があります。  <b>重要：</b> AdminStudio 9.0 Zenworks Edition の使用を予定している場合、プライマリサーバでポート 80 を使用する必要があります。
	443	ポート 443 は CASA 認証に使用されます。このポートを開くことで、ZENworks Configuration Management はファイアウォール外部のデバイスを管理できるようになります。このポートで ZENworks サーバと管理対象デバイス上の ZENworks エージェント間の通信を常に許可するように、ネットワークを設定することをお勧めします。
	998	プレブートサーバが使用します。

項目	要件	追加の詳細
ファイアウォール設定 :UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行していない場合に使用します。
	69	イメージング TFTP で使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。
	997	イメージングサーバがマルチキャストに使用します。
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行している場合に使用します。ファイアウォールは、Proxy DHCP Service へのブロードキャストトラフィックを許可するように設定する必要があります。
	13331	zmgpreboot ポリシーで使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。

## 1.2.2 サテライトの役割を実行する Linux デバイス

現在、ZENworks Configuration Management では Windows デバイスのみを管理できます。ただし、サテライトの役割を実行するのに、管理されない Linux デバイスを使用できません。

サテライトの役割を実行する Linux デバイスは、次の要件を満たす必要があります。

表 1-3 サテライトの役割を実行する Linux デバイスの要件

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム：サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SLES 10 SP1 / SP2 / SP3 x86、x86-64 (Intel プロセッサ、AMD Opteron* プロセッサ)</li> <li>◆ OES 2 SP1 / SP2 x86、x86-64</li> <li>◆ SLES 11 x86、x86-64 (Intel および AMD Opteron プロセッサ)</li> </ul>	
オペレーティングシステム：ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SUSE Linux Enterprise Desktop 10 (SLED 10) SP1/SP2 x86、x86-64</li> <li>◆ SLED 11 x86、x86-64</li> </ul>	

項目	要件	追加の詳細
ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>プロセッサ</b>: 最小 - Pentium* IV 2.8GHz 32 ビット (x86) および 64 ビット (x86-64)、または相当する AMD または Intel プロセッサ</li> <li>◆ <b>RAM</b>: 512MB( 最小 )、2GB( 推奨 )</li> <li>◆ <b>ディスク容量</b>: インストールの場合 128GB( 最小 )、実行の場合 4GB( 推奨 ) 配布する必要のあるコンテンツの量によって、この数値は大きく異なります。</li> <li>◆ <b>画面解像度</b>: 1024×768、256 色 ( 最小要件 )</li> </ul>	
ホスト名の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サーバは、DNS( 推奨 ) などの方法を使用して、デバイスのホスト名を解決する必要があります。</li> <li>◆ サーバ名は DNS 要件 ( 名前に下線が含まれていないなど ) を満たしている必要があります。満たしていない場合、ZENworks のログインが失敗します。使用できる文字は文字 a-z( 大文字および小文字 )、数字、およびハイフン (-) です。</li> </ul> <p>DNS を使用する場合、正しくセットアップしないと、ZENworks の一部の機能が動作しない可能性があります。</p>	
IP アドレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。</li> <li>◆ IP アドレスはターゲットサーバのすべての NIC にバインドされる必要があります。</li> </ul>	IP アドレスがバインドされていない NIC を使用しようとすると、エージェントインストールはハングします。
TCP ポート	80	80 は Tomcat の非セキュアポート用です。
	998	サーバがポート 80 および 443 で Apache などの他のサービスを実行している場合、または OES2 によって使用されている場合、インストールプログラムでは使用する新しいポートを指定するよう求められます。ただし、新しいポートは、必ず、親プライマリサーバで使用される HTTP ポートと同じにする必要があります。
	7628	プレブートサーバが使用します。
		Adaptive Agent で使用されます。

項目	要件	追加の詳細
	8005	Tomcat でシャットダウン要求のリスンに使用されます。これはローカルポートで、リモートでアクセスできません。
	8009	Tomcat AJP コネクタで使用されま す。
UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと 同じデバイスで実行していない場 合に使用します。
	69	イメージング TFTP で使用されま すが、各 PXE デバイスにランダム な UDP ポートを開くため、ファイ アウォールを越えては機能しま せん。
	997	イメージングサーバがマルチキャ ストに使用します。
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと 同じデバイスで実行している場 合に使用します。ファイアウォール は、Proxy DHCP Service へのブ ロードキャストトラフィックを許 可するように設定する必要があります。
	13331	zmgpreboot ポリシーで使用されま すが、各 PXE デバイスにランダム な UDP ポートを開くため、ファイ アウォールを越えては機能しま せん。
仮想マシン環境	ZENworks Configuration Management サーバソフトウェアは、次の仮想マシン 環境でインストールできます。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ VMware ワークステーション</li> <li>◆ Microsoft Virtual Server</li> <li>◆ XEN (Novell SLES 10 および Citrix XenServer)</li> <li>◆ VMWare ESX</li> <li>◆ Windows 2008 Hyper Visor</li> </ul>	

## 1.3 管理ゾーンのバージョン要件

既存の管理ゾーンに別のプライマリサーバをインストールする場合は、インストールメディアの製品バージョンが管理ゾーンの製品バージョンと互換性がある必要があります。例を次に示します。

表 1-4 管理ゾーンのバージョンとインストールメディアのバージョンの互換性

管理ゾーンの製品バージョン	互換性のあるインストールメディア	互換性のないインストールメディア
<p><b>10.0.0:</b> ZENworks 10 Configuration Management ( 初期リリース、電子版のみ )。</p> <p>バージョンは、管理ゾーンに最初のサーバをインストールすると設定されます。</p>	<p>ZENworks 10 Configuration Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。</li> </ul>
<p><b>10.0.1:</b> ZENworks 10 Configuration Management ( メディアおよび電子版リリース )。</p> <p>バージョンは、管理ゾーンに最初のサーバをインストールすると設定されます。</p>	<p>ZENworks 10 Configuration Management (10.0.1: メディアおよび電子版リリース)。</p> <p>または</p> <p>バージョン 10.0.0 から更新を実行するには、<a href="http://support.novell.com/search/kb_index.jsp">Novell サポートナレッジベース (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)</a> の TID 3407754 を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks 10 Configuration Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。</li> <li>◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。</li> </ul>
<p><b>10.0.2:</b> ZENworks 10 Configuration Management 用アップデート。</p> <p>バージョンは、ZENworks コントロールセンターのシステム更新機能を使用して管理ゾーン内の ZENworks データベースをバージョン 10.0.2 に更新すると設定されます。これは、アップデートタスクを実行するプライマリサーバによって処理されます。</p> <p>システム更新の詳細については、『<a href="#">ZENworks 10 Configuration Management System Administration リファレンス</a>』の「<a href="#">ZENworks システム更新の概要</a>」を参照してください。</p>	<p>ZENworks 10 Configuration Management (10.0.1: メディアおよび電子版リリース)。次のいずれかの条件の場合、新しくインストールしたサーバは自動的にバージョン 10.0.2 にアップデートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゾーンの一部のみがアップデートされている場合、新しいサーバをインストールすると、アップデートがゾーン内の残りのデバイスに移動する際に、サーバは自動的にアップデートされます。</li> <li>◆ 設定されているアップデートステージがすべて完了している場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。</li> <li>◆ ステージングを省略するよう選択した場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks 10 Configuration Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。</li> <li>◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。</li> </ul>

管理ゾーンの製品バージョン	互換性のあるインストールメディア	互換性のないインストールメディア
<p><b>10.0.3:</b> ZENworks 10 Configuration Management 用アップデート。</p> <p>バージョンは、新しいインストールメディアまたはシステム更新機能を使用してインストールを実行し、管理ゾーン内のZENworks データベースをバージョン 10.0.3 にアップデートすると、設定されます。</p> <p>システム更新の詳細については、『<a href="#">ZENworks 10 Configuration Management System Administration リファレンス</a>』の「<a href="#">ZENworks システム更新の概要</a>」を参照してください。</p>	<p>ZENworks 10 Configuration Management アップデート (10.0.3: メディアおよび電子版リリース)。次のいずれかの条件の場合、新しくインストールしたサーバは自動的にバージョン 10.0.3 にアップデートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゾーンの一部のみがアップデートされている場合、新しいサーバをインストールすると、アップデートがゾーン内の残りのデバイスに移動する際に、サーバは自動的にアップデートされます。</li> <li>◆ 設定されているアップデートステージがすべて完了している場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。</li> <li>◆ ステージングを省略するよう選択した場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。</li> </ul> <p>旧バージョンのメディア (バージョン 10.0.3 未満) のインストールを使用すると、ゾーンに対する認証が失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>指定されたプライマリサーバで、入力された資格情報が有効であると確認できません。サーバアドレスと資格情報および/またはネットワーク接続を検証してから、再試行してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks 10 Configuration Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。</li> <li>◆ ZENworks 10 Configuration Management (10.0.1: 初期メディアリリース)。</li> <li>◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。</li> </ul>
10.1.x	ZENworks 10 Configuration Management (10.1.0)	ZENworks 10 Configuration Management (10.0.x)
10.2.x	ZENworks 10 Configuration Management (10.2.0 / 10.1.0)	ZENworks 10 Configuration Management (10.0.x)
10.3.x	ZENworks 10 Configuration Management (10.3.0 / 10.2.0)	ZENworks 10 Configuration Management (10.1.0 / 10.0.x)

## 1.4 データベースの要件

ZENworks 10 Configuration Management のデフォルトとして組み込まれている Sybase SQL Anywhere データベース以外のデータベースを ZENworks データベースとして使用する場合は、もう一方のデータベースで、次の要件を満たす必要があります。

表 1-5 データベースの要件

項目	要件
データベースバージョン	Sybase* SQL Anywhere 10.0.1; Sybase SQL Anywhere 10.0.1.3519 以上 (ZENworks Reporting Server 用)。  Microsoft SQL Server* 2005 (Enterprise および Standard エディションがサポートされています)。  Oracle* 10g Standard Release 2 - 10.2.0.1.0。
デフォルトの文字セット	Sybase および MS SQL の場合、UTF-8 文字セットが必要です。  Oracle の場合、NLS_CHARACTERSET パラメータを AL32UTF8 に設定し、NLS_NCHAR_CHARACTERSET パラメータを AL16UTF16 に設定する必要があります。
TCP ポート	サーバはデータベースポート上のプライマリサーバ通信を許可する必要があります。MS SQL の場合は、データベースサーバ用のスタティックポートを設定してください。  デフォルトポートは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ MS SQL は 1433</li><li>◆ Sybase SQL は 2638</li><li>◆ Oracle は 1521</li></ul> <b>重要:</b> 競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。ただし、そのポートは、プライマリサーバがデータベースと通信できるように開いておく必要があります。
WAN に関する注意事項	プライマリサーバと ZENworks データベースは同じネットワークセグメント上に存在する必要があります。プライマリサーバは WAN 経由で ZENworks データベースに書き込むことはできません。
照合	ZENworks 10 Configuration Management は、MS SQL データベースの大文字小文字を区別するインスタンスではサポートされません。したがって、データベースが大文字小文字を区別しないことを確認してから、データベースをセットアップする必要があります。
データベースユーザ	ZENworks データベースユーザがリモートデータベースに接続するのに制約がないかどうか確認してください。  たとえば、ZENworks データベースユーザが Active Directory ユーザである場合は、Active Directory のポリシーがユーザのリモートデータベースへの接続を許すかどうか確認します。

項目	要件
[Database Settings]	<p>MS SQL の場合は、READ_COMMITTED_SNAPSHOT 設定をオンに設定して、データの書き込みまたは変更時にデータベース内の情報を読み取れるようにします。</p> <p>READ_COMMITTED_SNAPSHOT をオンに設定するには、データベースサーバのプロンプトで、次のコマンドを実行します。</p> <pre>ALTER DATABASE <i>database_name</i> SET READ_COMMITTED_SNAPSHOT ON;</pre>

## 1.5 LDAP ディレクトリ要件

ZENworks 10 Configuration Management では、ユーザへのコンテンツの割り当て、ZENworks 管理者アカウントの作成、ユーザとデバイスの関連付けなどのユーザ関連タスクに関して、既存のユーザソース (ディレクトリ) を参照できます。LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、ユーザと相互作用するために ZENworks によって使用されるプロトコルです。

表 1-6 LDAP ディレクトリ要件

項目	要件
LDAP バージョン	<p>LDAP v3</p> <p>OPENLDAP はサポートされていません。ただし、SUSE Linux サーバに eDirectory がインストールされている場合は、eDirectory をユーザソースとして使用できます。LDAP v3 を使用する場合、eDirectory のインストール時に指定した代替ポート (デフォルトポートは OPENLDAP が使用している可能性があるため) を使用して Linux サーバ上の eDirectory にアクセスできます。</p>
信頼されたユーザソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell eDirectory 8.7.3 または 8.8 (サポートされているすべてのプラットフォーム)</li> </ul> <p>eDirectory をユーザソースとして使用する場合は、複数の eDirectory ユーザが同じユーザ名とパスワードを使用しないようにしてください。ユーザ名が同一でも、パスワードは異なるようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Microsoft Active Directory (Windows 2000 SP4 以上に付属)</li> <li>◆ DSfW (Domain Services for Windows)</li> </ul>
LDAP ユーザアクセス	<p>ZENworks は、LDAP ディレクトリへの読み込みアクセスのみが必要です。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ユーザソースへの接続」を参照してください。</p>

## 1.6 管理対象デバイス要件

ZENworks Adaptive Agent はプライマリサーバを含むすべての管理対象デバイスにインストールされる、管理ソフトウェアです。現在、Windows デバイスは管理できますが、Linux デバイスはできません。ただし、Linux サーバにプライマリサーバソフトウェアをインストールすると、Adaptive Agent の一部が有効になり、Linux プライマリサーバでもシステム更新機能を使用できるようになります。

管理対象デバイスはサテライトとして使用できます。管理対象デバイスをサテライトとして使用する場合は、このセクションに一覧されている要件に加えて、デバイスがサテライト機能を実行でき、15 ページのセクション 1.2 「サテライト要件」に示されている要件を満たすことを確認してください。

ZENworks 10 Configuration Management では、次の要件を満たすワークステーションとサーバを管理できます。

表 1-7 管理対象デバイスの要件

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム :Windows サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 Server SP4</li> <li>◆ Windows Server 2003 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 R2 (Enterprise および Standard エディション)</li> </ul>	<p>Windows Server 2003 および Windows Server 2008 のすべての Core Edition は、.NET Framework をサポートしていないため、管理対象デバイスプラットフォームとしてサポートされていません。</p> <p>ZENworks 10 Configuration Management は、Hyper-V の有無にかかわらず、Windows Server 2003 および Windows Server 2008 エディションでサポートされています。</p>
オペレーティングシステム :Windows ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 Professional SP4 x86</li> <li>◆ Embedded XP SP2/SP3</li> <li>◆ Windows Vista* SP1/SP 2 x86、x86-64 (Business、Ultimate、および Enterprise バージョンのみ。Home バージョンはサポートされません)</li> <li>◆ Embedded Vista SP1/SP2</li> <li>◆ Windows XP Professional SP2/SP3 x86</li> <li>◆ Windows XP Tablet PC Edition SP3 x86</li> <li>◆ Windows 7 x 86、x86-64 (Professional、Ultimate、Enterprise エディション)</li> </ul>	<p>管理対象デバイス名は 32 文字までです。デバイス名が 32 文字を超える場合、このデバイスはインベントリに含まれません。また、デバイス名が固有で、デバイスがインベントリレポートで適切に認識されるようにしてください。</p>

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム：シンクライアントセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 Server SP4 x86</li> <li>◆ Windows Server 2003 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 R2 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Citrix* XenApp MetaFrame XP</li> <li>◆ Citrix XenApp 4.5</li> <li>◆ Citrix XenApp 5.0</li> </ul>	Windows Server 2008 Core は管理対象デバイスのプラットフォームとしてはサポートされていません。これは、Windows Server 2008 Core では .NET Framework がサポートされていないためです。
ハードウェア	<p>ハードウェアの最小要件は次のとおりです。これらの要件またはオペレーティングシステムで指定されるハードウェア要件のうち、要件が高い方を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プロセッサ :Pentium III 700MHz、または相当する AMD または Intel</li> <li>◆ RAM: 256MB (最低)、512MB (推奨)</li> <li>◆ ディスプレイ解像度 : 1024 × 768 (256 色)</li> </ul>	
自動 ZENworks Adaptive Agent 展開	<p>Adaptive Agent を管理対象デバイスに自動的に展開するには、次のことが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ファイアウォールがファイルおよび印刷共有を許可していること</li> <li>◆ Windows XP デバイス上で、簡易ファイル共有がオフになっていること</li> <li>◆ 管理者資格情報がインストールするデバイスに既知であること</li> <li>◆ 管理対象デバイスおよび ZENworks サーバ上の日付と時刻は、同期している必要があります。</li> <li>◆ [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションが有効になっていること。</li> </ul>	前提条件の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス』の「デバイスへの展開の前提条件」を参照してください。

項目	要件	追加の詳細
Microsoft .NET	ZENworks 10 Configuration Management をインストールするには、管理対象デバイスに Microsoft* .NET 2.0 ソフトウェアと最新アップデートをインストールして実行している必要があります。	<p>ZENworks のインストール中に .NET インストールを開始するオプションがあります。オプションを選択すると、.NET 2.0 がインストールされます。パフォーマンスと安定性を高めるには、Windows 自動更新またはエージェントのパッチ管理で、.NET 2.0 の最新のサポートパックとパッチにアップグレードしてください。</p> <p>.NET 2.0 SP1 は Microsoft が Windows 2000 でサポートする最新バージョンです。.NET 2.0 SP2 は、Microsoft が Windows XP、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Vista でサポートする .NET 2.0 の最新バージョンです。</p> <p>Windows XP と Windows Server 2003 では、.NET 2.0 SP2 を直接ダウンロードしてインストールしたり、.NET 2.0 SP2 を含む .NET 3.5 SP1 にアップグレードできません。Windows Vista および Windows Server 2008 では、.NET 3.5 SP1 にアップグレードして .NET 2.0 SP2 アップデートをインストールする必要があります。</p>
TCP ポート	7628	<p>管理対象デバイスの ZENworks Adaptive Agent の ZENworks コントロールセンターでステータスを表示するために、Windows ファイアウォールを使用している場合、ZENworks はデバイスのポート 7628 を自動的に開きます。ただし、別のファイアウォールを使用している場合は、このポートを手動で開く必要があります。</p> <p>ZENworks コントロールセンターからクライアントにクイックタスクを送信する場合は、デバイスのポート 7628 も開く必要があります。</p>
	5950	<p>ZENworks Adaptive Agent が実行されているリモート管理では、デバイスはポート 5950 でリスンします。</p> <p>このポートは ZENworks コントロールセンター ( [設定] タブ &gt; [管理ゾーンの設定] &gt; [デバイス管理] &gt; [リモート管理] ) で変更できます。</p>

項目	要件	追加の詳細
仮想マシン環境	ZENworks 管理対象デバイスソフトウェアは、次の仮想マシン環境でインストールできます。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ VMware ワークステーション</li> <li>◆ Microsoft Virtual Server</li> <li>◆ XEN (Novell SLES 10およびCitrix XenServer)</li> <li>◆ VMWare ESX</li> <li>◆ Windows 2008 Hyper Visor</li> </ul>	

## 1.7 インベントリのみデバイス要件

ZENworks 10 Configuration Management を使用して、ZENworks Adaptive Agent で管理できないワークステーションとサーバのインベントリを作成できます。インベントリのみデバイスは、次の要件を満たしている必要があります。

表 1-8 インベントリのみデバイス要件

項目	要件
オペレーティングシステム：サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ AIX 4.3-5.3 IBM pSeries (RS6000)</li> <li>◆ HP-UX 10.20-11.23 HP PA-RISC (HP9000)</li> <li>◆ NetWare® 5.1、6、6.5<sup>1</sup></li> <li>◆ OES 2 SP1 / SP2x86、x86-64</li> <li>◆ Red Hat Enterprise Linux 2.1 ~ 4.x</li> <li>◆ Solaris 2.6 ~ 10 Sun SPARC (32 および 64 ビット)</li> <li>◆ SLES 8.0-11 (すべてのエディション)</li> <li>◆ Windows 2000 Server SP4 x86</li> <li>◆ Windows Server 2003 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 SP1 / SP2 x86、x86-64 (Enterprise および Standard エディション)</li> <li>◆ Windows Server 2008 R2 (Enterprise および Standard エディション)</li> </ul>

項目	要件
オペレーティングシステム：ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Mac OS* X 10.2.4 以降</li> <li>◆ Red Hat Linux 7.1 ~ 9</li> <li>◆ SLED 8.0-11 (すべてのエディション)</li> <li>◆ Windows 2000 Professional SP4 x86</li> <li>◆ Embedded XP SP2/SP3</li> <li>◆ Windows Vista* SP1/SP 2 x86、x86-64 (Business、Ultimate、および Enterprise バージョンのみ。Home バージョンはサポートされません)</li> <li>◆ Embedded Vista SP1/SP2</li> <li>◆ Windows XP Professional SP2/SP3 x86</li> <li>◆ Windows XP Tablet PC Edition SP3 x86</li> <li>◆ Windows 7 x 86、x86-64 (Professional、Ultimate、Enterprise エディション)</li> </ul>
オペレーティングシステム：セッション	<p>シンクライアントセッション：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 Server SP4 x86</li> <li>◆ Windows Server 2003 SP2 x86、x86-64</li> <li>◆ Citrix XenApp MetaFrame XP</li> <li>◆ Citrix XenApp 4.5</li> <li>◆ Citrix XenApp 5.0</li> </ul>
インベントリのみモジュール	<p>ZENworks 10 Configuration Management をネットワークにインストールしたら、前に示したデバイスをインベントリに含めるために、このモジュールを前に示したデバイスにインストールする必要があります。詳細については、『<a href="#">ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス</a>』の「<a href="#">インベントリのみモジュールの展開</a>」を参照してください。</p>
ハードディスク：ディスク容量	<p>インベントリのみモジュールには、次の最小ディスク容量が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ AIX:4MB</li> <li>◆ Solaris:4MB</li> <li>◆ Linux:900KB</li> <li>◆ HP-UX:900KB</li> <li>◆ Windows:15MB</li> <li>◆ Mac OS: 8MB</li> <li>◆ NetWare: 30MB</li> </ul>

項目	要件
システムライブラリ :AIX	<p data-bbox="548 264 1110 285">次のシステムライブラリが AIX デバイスに必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="574 317 656 338">◆ /unix</li> <li data-bbox="574 359 813 380">◆ /usr/lib/libc.a (shr.o)</li> <li data-bbox="574 401 821 422">◆ /usr/lib/libc.a (pse.o)</li> <li data-bbox="574 443 948 464">◆ /usr/lib/libpthread.a (shr_xpg5.o)</li> <li data-bbox="574 485 964 506">◆ /usr/lib/libpthread.a (shr_comm.o)</li> <li data-bbox="574 527 976 548">◆ /usr/lib/libpthreads.a (shr_comm.o)</li> <li data-bbox="574 569 967 590">◆ /usr/lib/libstdc++.a (libstdc++.so.6)</li> <li data-bbox="574 611 862 632">◆ /usr/lib/libgcc_s.a (shr.o)</li> <li data-bbox="574 653 902 674">◆ /usr/lib/libcurl.a (libcurl.so.3)</li> <li data-bbox="574 695 854 716">◆ /usr/lib/libcrypt.a (shr.o)</li> </ul>
システムライブラリ :HP-UX	<p data-bbox="548 737 1146 758">次のシステムライブラリが HP-UX デバイスに必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="574 789 737 810">◆ /usr/lib/libc.1</li> <li data-bbox="574 831 737 852">◆ /usr/lib/libc.2</li> <li data-bbox="574 873 756 894">◆ /usr/lib/libdld.1</li> <li data-bbox="574 915 756 936">◆ /usr/lib/libdld.2</li> <li data-bbox="574 957 740 978">◆ /usr/lib/libm.2</li> <li data-bbox="574 999 854 1020">◆ /usr/local/lib/libcrypto.sl</li> <li data-bbox="574 1041 902 1062">◆ /opt/openssl/lib/libcrypto.sl.0</li> <li data-bbox="574 1083 870 1104">◆ /opt/openssl/lib/libssl.sl.0</li> <li data-bbox="574 1125 837 1146">◆ /usr/local/lib/libiconv.sl</li> <li data-bbox="574 1167 821 1188">◆ /usr/local/lib/libintl.sl</li> <li data-bbox="574 1209 1260 1230">◆ /usr/local/lib/gcc-lib/hppa1.1-hp-hpux11.00/3.0.2/../../../../libidn.sl</li> </ul>

## 1.8 管理ブラウザ要件

ZENworks コントロールセンターを実行してシステムを管理するワークステーションまたはサーバが次の要件を満たしていることを確認します。

表 1-9 管理ブラウザ要件

項目	要件
Web ブラウザ	管理デバイスは次の Web ブラウザの 1 つがインストールされている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ Internet Explorer 7 (Windows Vista、Windows Server 2003、Windows XP、および Windows Server 2008 上)</li><li>◆ Internet Explorer 8 (Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2003、Windows XP、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 上)</li><li>◆ Firefox のバージョン 3.0.10 またはバージョン 3.0 以降のパッチ</li><li>◆ Firefox のバージョン 3.5 またはバージョン 3.5 以降のパッチ</li></ul>
JRE 5.0	イメージエクスプローラを実行するには、Java* Virtual Machine* (JVM*) のバージョン 1.5 が管理デバイスにインストールされ、実行されている必要があります。
TCP ポート	管理対象デバイス上でのリモートセッションに対するユーザの要求を満たすには、リモート管理リスナを実行するために管理コンソールデバイス上でポート 5550 を開く必要があります。

## 1.9 インストールユーザの要件

インストールプログラムを実行するユーザは、デバイスに対する管理者特権を持っている必要があります。例：

- ◆ **Windows:** Windows 管理者としてログインします。
- ◆ **Linux:** root でないユーザとしてログインする場合は、su コマンドを使用して権限を root に昇格させてから、インストールプログラムを実行します。



# その他の ZENworks 製品との共存

# 2

環境に他の ZENworks 製品が存在する場合は、次のセクションを参照して注意すべき共存に関する情報を確認してから、ZENworks 10 SP3 をインストールしてください。

- ◆ 31 ページのセクション 2.1 「ZENworks Desktop Management」
- ◆ 32 ページのセクション 2.2 「ZENworks Asset Management」
- ◆ 32 ページのセクション 2.3 「ZENworks Patch Management」
- ◆ 32 ページのセクション 2.4 「ZENworks サーバ管理」
- ◆ 32 ページのセクション 2.5 「ZENworks Linux Management」
- ◆ 33 ページのセクション 2.6 「ZENworks Handheld Management」

## 2.1 ZENworks Desktop Management

次の情報は、ZENworks 10 SP3 が ZENworks 7 と共存する場合に適用されます。x Desktop Management (ZDM 7) と共存する ZENworks 10 に適用されます。ZENworks 10 は、ZENworks for Desktops 4 とは共存しません。x または ZENworks 6.5 Desktop Management とは共存しません。

- ◆ **サーバ共存:** ZENworks 10 サーバは、ZDM 7 サーバまたは ZDM 7 エージェントとは共存できません。ZENworks 10 サーバは、ZDM 7 サーバまたは ZDM エージェントがすでにインストールされているネットワークサーバにはインストールしないでください。
- ◆ **エージェント共存:** エージェント共存について 3 つの問題があります。
  - ◆ **問題 1:** インストールされている ZENworks 10 Adaptive Agent の機能がアセット管理だけの場合は、ZENworks 10 Adaptive Agent を ZDM 7 エージェントと共存させることができます。  
環境設定管理機能 (ポリシー管理、バンドル管理、リモート管理、ユーザ管理、イメージング) が、ZDM 7 エージェント機能と重複します。これらの機能をインストールすると (環境設定管理の評価目的の場合でも)、ZDM 7 エージェントは自動的にアンインストールされます。  
つまり、ZDM 7 と ZENworks 10 Asset Management は同じデバイス上で使用できませんが、ZDM 7 と ZENworks 10 Configuration Management は同じデバイス上では使用できません。
  - ◆ **問題 2:** ZDM 7 エージェントは、ZENworks 10 Adaptive Agent より前にデバイスにインストールする必要があります。ZDM 7 エージェントを ZENworks 10 Adaptive Agent の後でインストールした場合は、エージェントを削除するまで Windows をセーフモードでしか起動できなくなるなど、好ましくない結果が生じることがあります。
  - ◆ **問題 3:** Adaptive Agent を ZDM 7 登録デバイスにインストールすると、ZENworks 10 管理ゾーンでのデバイスの登録に ZDM 7 GUID が使用されます。これにより、後で ZDM 7 から ZENworks 10 Configuration Management への移行を決定した場合、デバイスのマイグレーションパスが提供されます。

## 2.2 ZENworks Asset Management

次の情報は、ZENworks 10 SP3 と ZAM 7.5 (ZENworks 7.5 Asset Management) が共存する場合に適用されます。

- ◆ **サーバ共存** : 共存について既知の問題はありません。パフォーマンス上の理由で、ZENworks 10 サーバを ZAM 7.5 サーバと同じネットワークサーバにインストールしないことを推奨します。
- ◆ **エージェント共存** ZAM 7.5 IR19 以降では、ZENworks 10 Adaptive Agent( インベントリのみエージェントを含む) と ZAM 7.5 クライアントは共存できます。

## 2.3 ZENworks Patch Management

次の情報は、ZENworks 10 SP3 が ZPM 7 (ZENworks 7.x Patch Management) および ZPM 6.4 (ZENworks Patch Management 6.4) と共存する場合に適用されます。

- ◆ **サーバ共存** : 共存について既知の問題はありません。パフォーマンス上の理由で、ZENworks 10 サーバを ZPM 7/ZPM 6.4 サーバと同じネットワークサーバにインストールしないことを推奨します。
- ◆ **エージェント共存** : ZENworks 10 Adaptive Agent と ZPM 7/ZPM 6.4 エージェントは共存できます。ZPM 7/ZPM 6.4 の代わりに ZENworks 10 Patch Management を使用する場合、ZENworks 10 Patch Management は ZENworks 10 Adaptive Agent を使用するの、ZPM 7/ZPM 6.4 エージェントを削除できます。

## 2.4 ZENworks サーバ管理

次の情報は、ZENworks 10 SP3 が ZENworks 7 と共存する場合に適用されます。x Server anagement (ZSM 7) および ZENwork for Servers 3x (ZFS 3) と共存する ZENworks 10 に適用されます。

- ◆ **サーバ共存** : 共存について既知の問題はありません。パフォーマンス上の理由で、ZENworks 10 サーバは ZSM 7/ZFS 3 サーバと同じネットワークサーバにインストールしないことを推奨します。
- ◆ **エージェント共存** : ZSM 7 と ZFS 3 にはエージェントはありません。

## 2.5 ZENworks Linux Management

次の情報は、ZENworks 10 SP3 が ZENworks 7 と共存する場合に適用されます。x Linux Management (ZLM 7) と共存する ZENworks 10 に適用されます。

- ◆ **サーバ共存** : サーバ共存について 2 つの問題があります。
  - ◆ **問題 1** : ZENworks 10 サーバ (Linux バージョン) は ZLM 7 サーバと共存できません。ZENworks 10 サーバは、ZLM 7 サーバがインストールされている Linux サーバにはインストールしないでください。
  - ◆ **問題 2** : ZENworks 10 サテライト (Linux バージョン) は、ZLM 7 サーバと共存できません。ZENworks 10 サテライトは、ZLM 7 サーバがすでにインストールされている Linux サーバにはインストールしないでください。

- ◆ **サーバ/エージェント共存** : ZENworks 10 のサーバとサテライト (Linux バージョン) は、ZLM 7 エージェントと共存できません。つまり、ZENworks 10 のサーバとサテライトは、ZLM 7 ゾーンでは管理対象デバイスにはなりません。ZLM 7 エージェントは、ZENworks 10 のサーバやサテライトと同じ Linux サーバにインストールしないでください。
- ◆ **エージェント共存** : エージェントには共存の問題はありません。ZENworks 10 Adaptive Agent は Windows デバイスにインストールされ、ZLM 7 エージェントは Linux デバイスにインストールされます。

## 2.6 ZENworks Handheld Management

次の情報は、ZENworks 10 SP3 が ZENworks 7 と共存する場合に適用されます。x Handheld Management、ZENworks for Handhelds 5.x、および ZENwork for Handhelds 3x と共存する ZENworks 10 に適用されます。

- ◆ **サーバ共存** : 共存について既知の問題はありません。パフォーマンス上の理由により、ZENworks 10 サーバは、従来の ZENworks Handheld Management サーバと同じネットワークサーバで実行しないことを推奨します。
- ◆ **エージェント共存** ZENworks 10 Adaptive Agent および ZENworks 7.5 Asset Management クライアントは共存できます。



以降のセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management システムのインストールの準備に役立つ情報を提供します。

- ◆ 35 ページのセクション 3.1 「ZENworks インストールの理解」
- ◆ 36 ページのセクション 3.2 「インストール情報の収集」
- ◆ 36 ページのセクション 3.3 「プレインストールタスク」

## 3.1 ZENworks インストールの理解

初めて ZENworks 10 Configuration Management をインストールする際には、最初のインストール先サーバであるプライマリサーバで管理ゾーンを確立します。その他のプライマリサーバは、その後で管理ゾーンにインストールできます。

ZENworks インストールプログラムは最初のプライマリサーバのインストール中に以下のことを実行します。

- ◆ 管理ゾーンの作成
- ◆ デフォルトの ZENworks 管理者アカウント用に入力するパスワードの作成
- ◆ ZENworks データベースの確立と入力

ZENworks インストール時には、プライマリサーバのインストール中に次の作業が実行されます。

- ◆ ZENworks Adaptive Agent のインストール (Windows サーバのみ) による管理の有効化
- ◆ ZENworks コントロールセンター (ZCC) のインストール
- ◆ zman コマンドラインユーティリティのインストール
- ◆ ZENworks サービスのインストールおよび起動

Adaptive Agent は、プライマリサーバ上のファイルから管理対象デバイスにインストールされます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

次の 3 つのインストール方法があります。

- ◆ **グラフィカルユーザインタフェース** : Windows サーバと Linux サーバの両方で機能するグラフィカルユーザインタフェース (GUI) インストールプログラムは、インストール CD に提供されています。Linux サーバの場合は、GUI 機能がすでにインストールされている必要があります。
- ◆ **コマンドライン** : コマンドラインインストールは Linux サーバでのみ利用可能です。Windows および Linux インストール実行可能ファイルはどちらもインストール引数を使用する目的でコマンドラインから実行できますが、Windows の場合は GUI インストールプログラムが開始されるのみです。
- ◆ **無干渉** : いずれかのインストール方法を使用して ZENworks を他のサーバへ無干渉でインストールするためのレスポンスファイルを作成することができます。

ZENworks をインストールする前に知っておく必要がある事項を学習するには、[36 ページのセクション 3.2 「インストール情報の収集」](#) を続けて参照してください。

## 3.2 インストール情報の収集

ZENworks 10 Configuration Management のインストールでは、次の情報を知っておく必要があります。

- ◆ 使用するインストール方法 (GUI、コマンドライン、または無干渉)
- ◆ インストールパス (Windows のみ)
- ◆ 管理ゾーン (ゾーン名、ユーザ名、パスワード、およびポート)
- ◆ 選択したデータベース (組み込み Sybase SQL、リモート OEM Sybase SQL、外部 Sybase SQL、外部 Microsoft SQL、または Oracle 10g Standard データベース)

詳細については、[36 ページのセクション 3.3 「プレインストールタスク」](#) を参照してください。

- ◆ データベース情報 (サーバ名、ポート、データベース名、ユーザ名、パスワード、名前付きインスタンス、ドメイン、および Windows または SQL Server 認証のどちらを使用しているか)

Oracle および MS SQL の場合は、データベースユーザ名が次の表記規則に従っていることを確認してください。

- ◆ 名前は英文字で始まる必要があります。
- ◆ -(ハイフン) または . (ピリオド) は使用できません。また、Oracle の場合はユーザ名に @ を使用できません。
- ◆ DER フォーマットの認証局情報 (内部、または署名証明書、秘密鍵、およびパブリック証明書)
- ◆ ライセンスキー (60 日間の試用オプションが使用できます)

アイテムの詳細については、[54 ページの i 4-1 § 「インストール情報」](#) を参照してください。

ZENworks インストールを開始するには、[36 ページのセクション 3.3 「プレインストールタスク」](#) に進んでください。

## 3.3 プレインストールタスク

以下の適用可能なタスクを実行し、[51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#) に進みます。

- ◆ [37 ページのセクション 3.3.1 「最小要件を満たしているかの確認」](#)
- ◆ [37 ページのセクション 3.3.2 「ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 3.3.3 「外部認証局の作成」](#)
- ◆ [40 ページのセクション 3.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」](#)
- ◆ [49 ページのセクション 3.3.5 「Mono 2.0.1-1.17 の SLES 11 へのインストール」](#)

### 3.3.1 最小要件を満たしているかの確認

ZENworks インストールを開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- ◆ プライマリサーバソフトウェアをインストールするデバイスが、必要な要件を満たしていることを確認します。詳細については、9 ページの第 1 章「システム要件」を参照してください。
- ◆ 必要なポートがすべて開いていることを確認します。ZENworks 10 Configuration Management SP3 を SLES 11 にインストールする場合、ポートを手動で開く必要があります。  
ZENworks で必要なポートについては、9 ページのセクション 1.1「プライマリサーバ要件」を参照してください。
- ◆ (条件付き) プライマリサーバソフトウェアを 64 ビット Windows Server 2003 または 64 ビット Windows Server 2008 にインストールする場合は、デバイスに Windows Installer 4.5 以降がインストールされていることを確認してください。

### 3.3.2 ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成

ZENworks ソフトウェアを ISO イメージのダウンロードとして入手した場合は、次のいずれかの操作を行ってインストール DVD を作成します。

- ◆ 37 ページの「Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」
- ◆ 37 ページの「Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」

#### Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールの ISO イメージを [Novell Web サイト \(http://www.novell.com/\)](http://www.novell.com/) からダウンロードして、一時的に Windows デバイスの適当な場所にコピーします。
- 2 ISO イメージを DVD に記録します。

#### Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

オプションで、DVD に記録する代わりに ISO マウントポイントからインストールプログラムを実行することもできます。

- 1 ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールの ISO イメージを [Novell Web サイト \(http://www.novell.com/\)](http://www.novell.com/) からダウンロードして、一時的に Linux デバイスの適当な場所にコピーします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ 次のコマンドを使用して ISO イメージをマウントします。

```
mount -o loop /tempfolderpath/isoimagename.iso mountpoint
```

*tempfolderpath* を一時フォルダへのパスと置き換えて、*isoimagename* を ZENworks ISO ファイル名と置き換え、*mountpoint* をイメージをマウントするファイルシステムの場所へのパスと置き換えます。*mountpoint* によって指定されたパスはすでに存在している必要があります。

たとえば、次のようにします。

```
mount -o loop /zcm10/ZCM10.iso /zcm10/install
```

- ◆ ISO イメージを DVD に記録します。

### 3.3.3 外部認証局の作成

外部認証局 (CA) を使用する予定の場合は、openssl をインストールし、次の操作を行って証明書ファイルを作成します。

- 1 証明書署名要求 (CSR) の作成に必要な秘密鍵を作成するために、次のコマンドを入力します。

```
openssl genrsa -out zcm.pem 1024
```

- 2 外部 CA が署名できる CSR を作成するために、次のコマンドを入力します。

```
openssl req -new -key zcm.pem -out zcm.csr
```

「YOUR name」を要求されたら、ZENworks 10 Configuration Management のインストール先のサーバに割り当てられている完全な DNS 名を入力します。

- 3 秘密鍵を PEM フォーマットから DER フォーマットに変換するために、次のコマンドを入力します。

```
openssl pkcs8 -topk8 -nocrypt -in zcm.pem -inform PEM -out zcm.der -  
outform DER
```

秘密鍵は PKCS8 DER フォーマットでなければならず、署名証明書は X.509 DER フォーマットでなければなりません。OpenSSL コマンドラインツールを使用してキーを適切なフォーマットに変換することができます。このツールは Cygwin ツールキットの一部として、または Linux 配布パッケージの一部として取得できます。

- 4 CSR を使用し、Novell ConsoleOne、Novell iManager、または実際の外部 CA (Verisign など) を使用して証明書を生成します。
  - ◆ [38 ページの「Novell ConsoleOne を使用した証明書の生成」](#)
  - ◆ [39 ページの「Novell iManager を使用した証明書の生成」](#)

#### Novell ConsoleOne を使用した証明書の生成

- 1 eDirectory が CA として設定されていることを確認します。
- 2 プライマリサーバに証明書を発行します。
  - 2a Novell ConsoleOne を起動します。
  - 2b 適切な権利を持った管理者として eDirectory ツリーにログインします。該当する権利については、*Novell 証明書サーバ 2.7* のマニュアルの「[Entry Rights Needed to Perform Tasks\(タスクの実行に必要なエントリ権利\)](#) (<http://www.novell.com/documentation/crt27/?page=/documentation/crt27/crtadmin/data/a2ziby.html#a2ziby0>)」のセクションを参照してください。
  - 2c [ツール] メニューで [*Issue Certificate(証明書の発行)*] をクリックします。
  - 2d zcm.csr ファイルを参照して選択します。
  - 2e [次へ] をクリックします。
  - 2f デフォルト値を受諾してウィザードを終了します。
  - 2g 証明書の基本制約を指定して、[次へ] をクリックします。
  - 2h 有効期間、発効日、有効期限を指定して、[次へ] を選択します。

- 2i [完了] をクリックします。
- 2j DER フォーマットで証明書を保存することを選択し、証明書の名前を指定します。
- 3 組織の CA の自己署名証明書をエクスポートします。
  - 3a ConsoleOne から eDirectory にログインします。
  - 3b セキュリティコンテナで、[CA] を右クリックして [プロパティ] をクリックします。
  - 3c [証明書] タブをクリックして、自己署名済み証明書を選択します。
  - 3d [エクスポート] をクリックします。
  - 3e 秘密鍵のエクスポートを要求されたら、[いいえ] をクリックします。
  - 3f DER フォーマットで証明書をエクスポートし、証明書を保存する場所を選択します。
  - 3g [完了] をクリックします。

以上で、外部 CA を使用して ZENworks をインストールするために必要な 3 つのファイルを準備できました。

### Novell iManager を使用した証明書の生成

- 1 eDirectory が CA として設定されていることを確認します。
- 2 プライマリサーバに証明書を発行します。
  - 2a Novell iManager を起動します。
  - 2b 適切な権利を持った管理者として eDirectory ツリーにログインします。該当する権利については、*Novell 証明書サーバ 2.7* のマニュアルの「[Entry Rights Needed to Perform Tasks\(タスクの実行に必要なエントリ権利\)](http://www.novell.com/documentation/crt27/?page=/documentation/crt27/crtadmin/data/a2zibyo.html#a2zibyo) (<http://www.novell.com/documentation/crt27/?page=/documentation/crt27/crtadmin/data/a2zibyo.html#a2zibyo>)」のセクションを参照してください。
  - 2c [Roles and Tasks(役割とタスク)] メニューから、[Novell 証明書サーバ] > [Issue Certificate(証明書の発行)] の順にクリックします。
  - 2d [参照] をクリックして、CSR ファイル zcm.csr を参照して選択します。
  - 2e [次へ] をクリックします。
  - 2f キータイプ、キーの使用法、拡張キーの使用法のデフォルト値を受諾し、[次へ] をクリックします。
  - 2g デフォルトの証明書の基本制約を指定して、[次へ] をクリックします。
  - 2h 有効期間、発効日、有効期限を指定して、[次へ] を選択します。ニーズに応じて、デフォルトの有効期間(10年)を変更します。
    - 2i パラメータシートを確認します。正しい場合は、[完了] をクリックします。正しくない場合は、変更が必要な箇所まで [戻る] をクリックして戻ります。

[完了] をクリックすると、証明書が作成されたというメッセージがダイアログボックスに表示されます。これによって、証明書がバイナリ DER フォーマットにエクスポートされます。
    - 2j 発行された証明書をダウンロードし、保存します。
- 3 組織の CA の自己署名証明書をエクスポートします。
  - 3a iManager から eDirectory にログインします。

- 3b** [Roles and Tasks( 役割とタスク)] メニューから、[Novell 証明書サーバ] > [Configure Certificate Authority( 認証局の設定)] の順にクリックします。  
組織 CA のプロパティページが表示され、全般ページ、CRL 設定ページ、証明書ページ、その他の eDirectory 関連のページが表示されます。
- 3c** [Certificates( 証明書)] をクリックして、[Self Signed Certificate( 自己署名証明書)] を選択します。
- 3d** [エクスポート] をクリックします。  
Certificate Export( 証明書エクスポート) ウィザードが起動します。
- 3e** [Export the Private Key( 秘密鍵のエクスポート)] オプションを選択解除し、エクスポート形式として DER を選択します。
- 3f** [次へ] をクリックして、エクスポートした証明書を保存します。
- 3g** [閉じる] をクリックします。

以上で、外部 CA を使用して ZENworks をインストールするために必要な 3 つのファイルを準備できました。

### 3.3.4 外部 ZENworks データベースのインストール

埋め込み Sybase データベースをインストールして ZENworks 10 Configuration Management 用を使用する場合は、[51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#) を参照してください。

外部データベースを設定する場合は、次のオプションがあります。

- ◆ **プライマリサーバのインストール中にデータベースを設定する** : これは最も時間がかからない、簡単な方法です。この方法の詳細は、[51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#) を参照してください。
- ◆ **プライマリサーバのインストール前に外部でデータベースを設定する** : このオプションは、データベース管理者と ZENworks 管理者が異なる場合に特に便利です。この方法の詳細は、このセクションで説明されています。

ZENworks インストール時に、外部 ZENworks データベースをインストールまたは作成する次のオプションがあります。

- ◆ 新規のリモート OEM Sybase データベースにインストールする
- ◆ 既存の Sybase SQL Anywhere 外部データベースにインストールする
- ◆ 既存の Microsoft SQL Server 外部データベースにインストールする
- ◆ 新しい Microsoft SQL Server 外部データベースを作成する
- ◆ 既存の Oracle 10g ユーザスキーマにインストールする
- ◆ 新しい Oracle 10g ユーザスキーマを作成する

これらのオプションによっては、ZENworks がインストール中に書き込めるように、外部データベースを作成または設定する作業を完了する必要があります。前提条件を満たしてから、データベースのインストールを続行します。

- ◆ [41 ページの「外部データベースのインストールの前提条件」](#)
- ◆ [43 ページの「外部 ZENworks データベースインストールの実行」](#)

## 外部データベースのインストールの前提条件

該当するセクションを確認してください。

- ◆ 41 ページの「リモート OEM Sybase の前提条件」
- ◆ 41 ページの「リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件」
- ◆ 41 ページの「Microsoft SQL Server の前提条件」
- ◆ 42 ページの「Oracle の前提条件」

### リモート OEM Sybase の前提条件

ZENworks 10 Configuration Management をインストールして管理ゾーンを作成する前に、まずリモートデータベースサーバにリモート OEM Sybase データベースをインストールして、そのデータベースを、データベースをホストするプライマリサーバのインストール時に正しく設定できるようにする必要があります。

---

**注：**このデータベースについては、Novell サポートから、問題の判別、互換性情報の提供、インストールの支援、使用上のサポート、継続的保守、および基本的なトラブルシューティングが提供されます。拡張トラブルシューティングやエラー解決などの追加サポートについては、[Sybase サポートの Web サイト \(http://www.sybase.com/support\)](http://www.sybase.com/support) を参照してください。

---

### リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件

Sybase SQL Anywhere データベースをインストールして ZENworks 10 Configuration Management 用に設定する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- ◆ Sybase SQL Anywhere データベースをインストールして設定し、ZENworks 10 Configuration Management のプライマリサーバへのインストール時に更新できるようにします。
- ◆ データベースユーザが、データベースサーバ上のテーブルを作成および変更するための読み込み / 書き込み権限を持っていることを確認してください。

---

**注：**このデータベースについては、Novell サポートから、問題の判別、互換性情報の提供、インストールの支援、使用上のサポート、継続的保守、および基本的なトラブルシューティングが提供されます。拡張トラブルシューティングやエラー解決などの追加サポートについては、[Sybase サポートの Web サイト \(http://www.sybase.com/support\)](http://www.sybase.com/support) を参照してください。

---

### Microsoft SQL Server の前提条件

Microsoft SQL Anywhere データベースをインストールして ZENworks 10 Configuration Management 用に設定する前に、Microsoft SQL Server ソフトウェアがデータベースサーバ上にインストールされており、ZENworks インストールプログラムで新しい Microsoft SQL データベースを作成できることを確認します。Microsoft SQL Server ソフトウェアのインストール手順については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

## Oracle の前提条件

ZENworks データベースの Oracle へのインストール時に、新しいユーザスキーマを作成するか、ネットワークのサーバに存在する既存のスキーマを指定するか、選択できます。

- ◆ **新しいユーザスキーマの作成** : 新しいユーザスキーマを作成するよう選択する場合、次の要件が満たされていることを確認してください。
  - ◆ データベース管理者のアカウント情報を把握している必要があります。
  - ◆ Oracle アクセスユーザに関連付けるためには、テーブルスペースがすでに存在している必要があります。
  - ◆ テーブルスペースには ZENworks データベーススキーマを作成および保存するのに十分な容量が必要です。テーブルスペースは、中にデータがない状態でも ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100MB 必要です。
- ◆ **既存のユーザスキーマの使用** : 次のシナリオで、ネットワーク内のサーバにある既存の Oracle ユーザスキーマをインストールできます。
  - ◆ データベース管理者は必要な権限を使用してユーザスキーマを作成し、ユーザはデータベース管理者からそのユーザスキーマのアカウント情報を受け取ります。この場合、既存の Oracle ユーザスキーマにインストールするのに、データベース管理者のアカウント情報は必要ありません。
  - ◆ Oracle データベースでユーザスキーマを作成し、ZENworks Configuration Management のインストール時に使用できるよう選択します。

既存のユーザスキーマを作成するよう選択する場合は、次の要件が満たされていることを確認してください。

- ◆ テーブルスペースには ZENworks データベーススキーマを作成および保存するのに十分な容量があることを確認します。テーブルスペースは、中にデータがない状態でも ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100MB 必要です。
- ◆ ユーザスキーマのクォータが、インストール中に設定を予定しているテーブルスペースで無制限に設定されていることを確認します。
- ◆ ユーザスキーマは、データベースを作成するため次の権限を持っていることを確認します。

```
CREATE SESSION
CREATE_TABLE
CREATE_VIEW
CREATE_PROCEDURE
CREATE_SEQUENCE
CREATE_TRIGGER
```

---

**重要** : Oracle データベースの場合、データベースが共有サーバを使用するように設定するか、専用サーバプロセスを使用するように設定するかによって、パフォーマンスに影響します。ZENworks プライマリサーバにはそれぞれデータベース接続プールが設定されており、そのサイズは ZENworks システム負荷によって変動します。このプールは、負荷のピーク時には、プライマリサーバごとに最大 100 の同時データベース接続まで増加します。Oracle データベースが専用サーバプロセスを使用するよう設定されていると、ゾーン内に複数のプライマリサーバがある場合にデータベースサーバリソース使用量が大幅に増加してパフォーマンスに影響することがあります。この問題が発生した場合は、ZENworks データベースが共有サーバプロセスを使用するように変更することを検討してください。

---

## 外部 ZENworks データベースインストールの実行

- 1 外部データベースをインストールするサーバが [21 ページのセクション 1.4 「データベースの要件」](#) および [41 ページの 「外部データベースのインストールの前提条件」](#) の要件を満たしていることを確認します。
- 2 データベースインストールプログラムを起動します。
  - 2a 外部データベースをインストールするサーバで、*Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールDVD* を挿入します。

DVD を挿入してデータベースインストールプログラムが自動実行された場合は、プログラムを終了します。

サーバが Windows の場合は、[ステップ 2b](#) に進みます。サーバが Linux の場合は、[ステップ 2c](#) にスキップします。
  - 2b Windows の場合は、外部データベースサーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
DVD_drive:\setup.exe -c
```

または  

ZENworks 10 Configuration Management がすでにデバイスにインストールされており、外部データベースインストールプログラムを使用してデバイスを ZENworks データベース ( 同じデバイスまたは別のデバイス上 ) の別のインスタンスの設定に使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
DVD_drive:\setup.exe -c --zcminstall
```
  - 2c Linux の場合は、外部データベースサーバで次のコマンドを実行します。

```
sh /media/cdrom/setup.sh -c
```

これにより、特に OEM データベースをリモートデータベースにしたい場合には、プライマリサーバのインストール時にはない追加オプションが提供されません。ZENworks データベースを生成する SQL ファイルを表示する、アクセスユーザを作成する、作成コマンド (OEM Sybase のみ) を参照するなどの操作を行うことができます。

または

ZENworks 10 Configuration Management がすでにデバイスにインストールされており、外部データベースインストールプログラムを使用してデバイスを ZENworks データベース ( 同じデバイスまたは別のデバイス上 ) の別のインスタンスの設定に使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
mounted_DVD_drive/setup.sh -c --zcminstall
```

sh コマンドを使用して、権限の問題を解決します。

データベースのインストールでは、GUI インストールのみ使用できます。
- 3 [ZENworks データベースの選択] ページで、次のいずれかを選択します。
  - ◆ **OEM Sybase SQL Anywhere:** デフォルトの ZENworks 用 Sybase 10 データベースをインストールします。これはサービスとして設定され、データベースユーザが作成され、プライマリサーバ用の必要なテーブルが確立されます。

このオプションを選択する場合、プライマリサーバソフトウェアのインストール時にデータベースを正常にインストールするために、`-o` (または `--sybase-oem`) パラメータを `setup.exe` インストール実行プログラムで使用する必要があります。このパラメータを使用すると、ZENworks が何らかの操作を行う前にデータベースを認証するようにすることができます。

-o パラメータは、*Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD に収録されている Sybase インストールを使用するときのみ使用してください。

また、プライマリサーバのインストール中に [リモート Sybase SQL Anywhere] オプションを選択する必要があります。

- ◆ **Sybase SQL Anywhere:** ZENworks の情報を書き込むために既存の Sybase データベースをセットアップします。
- ◆ **Microsoft SQL Server:** ZENworks データベースを Microsoft SQL Server 上に作成します。
- ◆ **Oracle:** ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定するために使用できるユーザスキーマを指定します。

---

**重要:** 外部データベースの場合は、データベースがインストールされたときに、データベースをホストしているサーバは管理ゾーン内のそれぞれのプライマリサーバと時間同期している必要があります。

---

- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 インストール中に次の情報を参照し、知っている必要があるインストールデータの詳細を確認してください。[ヘルプ] ボタンをクリックして、同様の情報を得ることもできます。
  - ◆ 44 ページの「OEM Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報」
  - ◆ 45 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報」
  - ◆ 46 ページの「MS SQL データベースのインストール情報」
  - ◆ 47 ページの「Oracle データベースのインストール情報」
- 6 51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」に進んでください。

## OEM Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 3-1 OEM Sybase SQL Anywhere の情報

インストール情報	説明
[Sybase データベースのインストール]	Sybase SQL Anywhere データベースソフトウェアの OEM コピーをインストールしたいパスを指定します。ターゲット Windows サーバ上で、現在サーバにマップされているドライブのみを利用できます。  デフォルトパスは <code>ドライブ名:\novell\zenworks</code> です。パスは変更できます。インストールプログラムは Sybase のインストール用の <code>\novell\zenworks</code> ディレクトリを作成します。
[Sybase サーバ設定]	Sybase SQL Anywhere データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、2638 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。

インストール情報	説明
[Sybase アクセス設定]	<p>一部の情報にはデフォルトが提供され、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>データベース名</b> : 作成するデータベースの名前を指定します。</li> <li>◆ <b>ユーザ名</b> : データベースにアクセスできる新規ユーザの名前を指定します。</li> <li>◆ <b>パスワード</b> : データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。</li> <li>◆ <b>データベースサーバ名</b> : Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前を指定します。</li> </ul>
[データベースファイルの場所]	<p>ZENworks Sybase データベースファイルを作成したいパスを指定します。デフォルトで、インストールプログラムは Sybase のインストール用にドライブ <code>\novell\zenworks</code> ディレクトリを作成し、これは変更できます。<code>\database</code> ディレクトリがデフォルトディレクトリに付加されます。</p> <p>例 - デフォルトパスは <code>ドライブ:\novell\zenworks\database</code> です。</p>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p> <p>データベースドライバ情報は ZENworks データベースインストーラで自動的に検出されます。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。</p>
[データベース作成コマンドの確認]	<p>データベース作成に使用されるデータベースコマンドを確認します。</p>

## Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 3-2 Sybase SQL Anywhere の情報

インストール情報	説明
[Sybase サーバ設定]	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>サーバ名</b> : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。</li> </ul> <hr/> <p><b>重要</b> : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ポート</b> : Sybase SQL Anywhere データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、2638 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。</li> </ul>

インストール情報	説明
[Sybase アクセス設定]	<p>このサーバには Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>データベース名</b>：既存のデータベース名を指定します。</li> <li>◆ <b>ユーザ名</b>：データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。</li> <li>◆ <b>パスワード</b>：データベースへの読み取り / 書き込み権限を持っている既存のユーザのパスワードを指定します。</li> <li>◆ <b>データベースサーバ名</b>：Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前を指定します。</li> </ul>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p> <p>データベースドライバ情報は ZENworks データベースインストーラで自動的に検出されます。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。</p>
[データベース作成コマンドの確認]	<p>データベース作成に使用されるデータベースコマンドを確認します。</p>

## MS SQL データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

**表 3-3** Microsoft SQL Server データベースの情報

インストール情報	説明
[データベースの選択]	<p>新規データベースを作成するか、既存データベースに接続するか、選択できます。</p>

インストール情報	説明
[外部データベースサーバの設定]	<p>データベースサーバには MS SQL データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>サーバアドレス</b> : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。</li> </ul> <hr/> <p><b>重要</b> : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ポート</b> : MS SQL データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、1433 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。</li> <li>◆ <b>名前付きインスタンス</b> : これは既存の ZENworks データベースをホストする SQL サーバインスタンスの名前です。名前付きインスタンスは、デフォルトである mssqlserver 以外を使用する場合に指定する必要があります。</li> <li>◆ <b>データベース名</b> : ZENworks データベースをホストする既存の MS SQL データベースの名前を指定します。このオプションは、既存データベースについてのみ利用できます。</li> <li>◆ <b>ユーザ名</b> : データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。</li> </ul> <p>Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザ名を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザと一致するユーザ名を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>パスワード</b> : [ユーザ名] フィールドで指定したユーザのパスワードを入力します。</li> <li>◆ <b>ドメイン</b> : SQL Server のインストールに、SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知っている必要があります。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。</li> </ul> <p>Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールド内で指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。</p>
[外部データベースの設定] > [データベースの場所] (新規データベースの場合にのみ該当)	<p>SQL サーバ上の既存の MS SQL データベースファイルのパスを指定します。デフォルトは、c:\database です。データベースをホストするデバイス上にパスが存在することを確認します。</p>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。スクリプトは表示のみが可能です。</p>

## Oracle データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 3-4 Oracle データベースの情報

インストール情報	説明
[Oracle ユーザスキーマオプション]	<p>新しいユーザスキーマを作成するか、またはネットワーク内のサーバ上に存在する既存のスキーマを指定できます。ユーザスキーマを使用して、ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定できます。</p> <p>新規ユーザスキーマを作成している場合、Oracle アクセスユーザに関連付けるためにテーブルスペースが存在している必要があります。既存のユーザスキーマで、権限とテーブルスペースが設定されている必要があります。</p>
[Oracle サーバ情報]	<p>データベースサーバには Oracle データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>サーバのアドレス</b> : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。</li> </ul>
	<p><b>重要</b> : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ポート</b> : データベースサーバによって使用されるポートを指定します。デフォルトでは、1521 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。</li> <li>◆ <b>サービス名</b> : 新規ユーザスキーマの場合、ユーザスキーマが作成されるインスタンス名 (SID) を指定します。既存のユーザスキーマでは、ユーザスキーマが作成されているインスタンス名 (SID) を指定します。</li> </ul>
[Oracle 管理者] (新規ユーザスキーマのみに該当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ユーザ名</b> : データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。</li> <li>◆ <b>パスワード</b> : データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。</li> </ul>
[Oracle アクセスユーザ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ユーザ名</b> : 新規ユーザスキーマでは、名前を指定します。既存のユーザスキーマでは、Oracle データベースにすでに存在するユーザスキーマの名前を指定します。</li> <li>◆ <b>パスワード</b> : 新規ユーザスキーマでは、データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。既存のユーザスキーマでは、Oracle データベースにすでに存在するユーザスキーマへのアクセスに使用するパスワードを指定します。</li> <li>◆ <b>デフォルトテーブルスペース</b> : 新規ユーザスキーマでは、ユーザスキーマを作成するテーブルスペースの名前を指定します。既存のユーザスキーマでは、[ユーザ名] フィールドで指定されたユーザスキーマを持つテーブルスペースを指定します。</li> </ul> <p>デフォルトでは、USERS です。</p>
[データベース情報の確認]	データベース設定情報を確認します。
[SQL スクリプトの確認]	実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。

### 3.3.5 Mono 2.0.1-1.17 の SLES 11 へのインストール

ZENworks 10 Configuration Management SP3 をインストールする SLES 11 デバイスに Mono がインストールされていない場合、次の手順に従って Mono 2.0.1-1.17 をインストールします。

- 1 次のいずれかの方法で、ZENworks 3 Configuration Management SP3 のインストールプログラムを起動します。
  - ◆ **GUI(グラフィカルユーザインタフェース)のインストール:** *Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD をマウントし、`sh /media/cdrom/setup.sh` を実行します。sh コマンドを使用して、権限の問題を解決します。
  - ◆ **コマンドラインインストール:** 次を実行します。
    1. インストールサーバで *Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD を挿入します。
    2. DVD をマウントします。
    3. コマンドラインインストールを開始するために、次の操作を実行します。
      - a. 全員(「その他」を除く)が読み込みアクセスと実行アクセスを持っているディレクトリに DVD をマウントするか、DVD のファイルをコピーします。

`/root` またはその下層にあるディレクトリにマウントまたはコピーすることはできません。

DVD のファイルをコピーした場合は、全員(「その他」を除く)がインストール先ディレクトリに対して引き続き読み込みアクセスと実行アクセスを持っていることを確認します。
      - b. 次のコマンドを実行します。

```
sh /mount_location/setup.sh -e
```
- 2 ZENworks 10 Configuration Management にバンドルされた Mono をインストールします。
- 3 (オプション)ZENworks 10 Configuration Management インストールプログラムでは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールを続行できます。ZENworks のインストール方法については、[51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#) を参照してください。



# ZENworks サーバのインストール

# 4

Novell® ZENworks® 10 のインストールメディアには、次の製品が含まれています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3
- ◆ ZENworks 10 Asset Management SP3
- ◆ ZENworks 10 Patch Management SP3
- ◆ Asset Inventory for UNIX/Linux

4 つの製品は、すべて、常にインストールされます。製品は、インストール時またはインストール後に有効な製品ライセンスを指定して (ZENworks 管理コンソール経由) アクティブ化します。製品に有効なライセンスがない場合は、製品を 60 日間評価できます。インストール時またはインストール後に評価期間を開始できます。

環境設定管理とアセット管理は、一緒に使用することも別個に使用することもできます。Patch Management には Configuration Management が必要です。Asset Inventory for UNIX/Linux には、環境設定管理またはアセット管理が必要です。

次のセクションのタスクを実行して、ZENworks 10 ソフトウェアをインストールします。

- ◆ [51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#)
- ◆ [63 ページのセクション 4.2 「無干渉インストールの実行」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 4.3 「インストール後のタスク」](#)

---

**注:** 他の製品と同様に、ZENworks 10 Configuration Management をテストまたはレビューする場合は、生産環境でない環境で製品を展開することを推奨します。

---

## 4.1 インストールの実行

1 次のいずれかの方法で、ZENworks のインストールプログラムを起動します。

- ◆ [51 ページの「GUI\(グラフィカルユーザインタフェース\)のインストール」](#)
- ◆ [52 ページの「コマンドラインインストール \(Linux のみ\)」](#)

### GUI(グラフィカルユーザインタフェース)のインストール

1. インストールサーバで *Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD を挿入します。

Windows の場合は、言語を選択するインストールページが表示されます。DVD の挿入後に自動的に表示されない場合は、DVD のルートから `setup.exe` を実行します。

Linux の場合は、DVD をマウントしてから、`sh /media/cdrom/setup.sh` を実行します。sh コマンドを使用して、権限の問題を解決できます。

2. 外部 OEM Sybase データベースをインストールした場合 ([40 ページのセクション 3.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」](#) を参照)、このプライマリサーバのインストール中にデータベースが適切に更新されるようにするために、次のパラメータを適用して手動で実行可能ファイルを実行する必要があります。

```
DVD_drive\setup.exe -o
```

3. 次のステップ 2 に進みます。

### コマンドラインインストール (Linux のみ)

1. インストールサーバで *Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD を挿入します。

2. DVD をマウントします。

3. コマンドラインインストールを開始するために、次の操作を実行します。

- a. 全員 (「その他」を除く) が読み込みアクセスと実行アクセスを持っているディレクトリに DVD をマウントするか、DVD のファイルをコピーします。

/root またはその下層にあるディレクトリにマウントまたはコピーすることはできません。

DVD のファイルをコピーした場合は、全員 (「その他」を除く) がインストール先ディレクトリに対して引き続き読み込みアクセスと実行アクセスを持っていることを確認します。

- b. 次のコマンドを実行します。

```
sh /mount_location/setup.sh -e
```

インストール引数の詳細については、87 ページの付録 A 「インストール実行可能引数」を参照してください。

4. 次のステップ 2 に進みます。

2 インストール中にインストールに必要なデータの詳細を 54 ページの i4-1§ 「インストール情報」内の情報で参照してください。

GUI インストールを使用している場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして同様の情報を参照することができます。

コマンドラインの場合は、「back」と入力して <Enter> を押すと、前のインストールオプションに戻って変更することができます。

3 Windows デバイスで次のいずれかを実行します：

- 自動的に再起動するよう選択した場合 (インストール時に [はい、システムを再起動しませんが] オプションを選択した場合。63 ページの「再起動 (再起動しない)」を参照してください)、起動プロセスが完了してサービスが起動したら、ステップ 4 に進みます。
- 手動で再起動するよう選択した場合 (インストール時に [いいえ、システムを後で手動で再起動しませんが] オプションを選択した場合。63 ページの「再起動 (再起動しない)」を参照してください)、インストールが完了してサービスが起動するまで待つてから、ステップ 4 で確認する必要があります。

---

**注：**Windows でも Linux でも、インストール処理が完了した部分のデータベースは更新され、PRU はダウンロードされてインストールされます。処理中はいずれも CPU の使用率が高くなります。このため、サービスの開始が遅くなり、ZENworks コントロールセンターを開くのにも時間がかかります。

---

4 インストールが完了してサーバが再起動したら、次の操作のいずれかを行って、ZENworks 10 Configuration Management SP3 が実行されていることを確認します。

- **ZENworks コントロールセンターの実行**

ZENworks コントロールセンターが自動的に起動していない場合は、次の URL を使用して Web ブラウザで ZENworks コントロールセンターを開きます。

`https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks`

これは ZENworks をインストールしたばかりのサーバか、または正規のワークステーションから実行できます。

ZENworks コントロールセンターが開かず、DNS を使用している場合は、DNS が正しく設定されているかどうか確認します。サーバで ZENworks コントロールセンターが開くためには、DNS が正しく動作している必要があります。DNS を正しく動作するよう再設定したら、ZENworks コントロールセンターはデスクトップアイコンからアクセスできます。

Oracle 10g データベースの場合、ユーザソースのログイン名も含め、管理者名の`大文字と小文字`が区別されます。インストール中に自動作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントでは最初の文字に`大文字`を使用しているため、ZENworks コントロールセンターにログインするときには Administrator と入力する必要があります。

- ◆ **GUI を使用して Windows サービスをチェックする**

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks サーバ] サービスの状態を確認します。

実行されていない場合は、ZENworks サービスを開始します。[Novell ZENworks サーバ] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

[再起動] オプションは、すでに実行されているすべての関連するサービスを停止し、Novell ZENworks Loader を含め、正しい順番で開始します。

- ◆ **設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **特定のサービスのコマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- 5 (オプション) このサーバで ZENworks を実行する方法に関して一定の環境設定パラメータを設定したい場合は、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「[Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定の変更](#)」を参照してください。

- 6 以下のいずれか該当するものを実行して [ステップ 7](#) に進みます。
- ◆ 使用したばかりの方法と同じインストール方法を使用して管理ゾーン用の別のプライマリサーバを作成するには、[ステップ 1](#) に戻ります。
  - ◆ 他のサーバ上で無干渉のインストールを実行するためにレスポンスファイルを作成した場合は、[65 ページのセクション 4.2.2 「インストールの実行」](#) に進みます。
- 7 [67 ページのセクション 4.3 「インストール後のタスク」](#) に進んでください。

## 4.1.1 インストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 4-1 インストール情報

インストール情報	説明
インストールパス (Windows のみ)	<p>Windows の場合は、%ProgramFiles% がデフォルトです。このパスはサーバ上で現在利用可能な任意のパスに変更することができます。インストールプログラムは ZENworks ソフトウェアファイルのインストール用の Novell\ZENworks ディレクトリを作成します。</p> <hr/> <p><b>重要:</b> レポートサーバを Oracle データベースを使用している 64 ビット Windows デバイスにインストールする場合は、カスタマイズした場所を指定して ZENworks Configuration Management をインストールする必要があります。このカスタマイズした場所のパス名には括弧を使用できません。パスに括弧が含まれていると、レポートサーバはインストールに失敗します。</p> <hr/> <p>インストール中に利用可能なコンテンツリポジトリ用として、Windows パスに存在するよりも多くのディスク要領が必要な場合は、インストールの完了後に別の場所にパスを変更することができます。詳細については、『<a href="#">ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス</a>』の「<a href="#">コンテンツリポジトリ</a>」を参照してください。</p> <p>Linux の場合は、いくつかの固定インストールパスが使用されます。</p> <pre>/opt/novell/zenworks/ /etc/opt/novell/zenworks /var/opt/novell/zenworks /var/opt/novell/log/zenworks/</pre> <p>Linux サーバ上のディスク容量に関しては、/var/opt ディレクトリにデータベースおよびコンテンツリポジトリが常駐しています。十分な大きさのパーティションに配置されていることを確認してください。</p>
レスポンスファイルパス (オプション)	<p>インストール実行可能ファイルを -s パラメータを指定して介した場合は、ファイルのパスを指定する必要があります。デフォルトパスは C:\Documents and Settings\Administrator\ で、現在のサーバ上で利用可能な任意のパスに変更することができます。</p> <p>レスポンスファイルを作成するためにプログラムを実行するときにはプライマリサーバソフトウェアはインストールされません。レスポンスファイルの識別と作成に必要なインストールページを表示するだけです。</p>

前提条件	<p>必要な前提条件がインストールされていない場合は、インストールを続行できません。満たされていない要件は、GUIに表示されるか、またはコマンドラインに一覧表示されます。詳細については、<a href="#">9 ページのセクション 1.1「プライマリサーバ要件」</a>を参照してください。</p> <p>.NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。.NET のインストール後、ZENworks のインストールが続行します。</p>
管理ゾーン	<p><b>新しいゾーン</b>：管理ゾーンで最初のサーバにインストールする場合は、なにを管理ゾーン用の名前とパスワードにするか知っている必要があります（これらは、ZENworks コントロールセンターへのログインに使用されます）。</p> <p>ゾーン名は 20 文字に制限されており、固有の名前でなければなりません。ゾーン名に使用できる特殊文字は、-(ハイフン)_(アンダースコア).(ピリオド)のみです。~`!@#%^&amp;*+=(){} \\ :;'"&lt;&gt;,?/\$</p> <p>ゾーン管理者パスワードは 6 文字以上にする必要があり、最大 255 文字に制限されています。パスワードには \$ 文字は 1 回だけ使用できます。</p> <p>デフォルトでは、ログイン名は「administrator」です。インストールが完了したら、ZENworks コントロールセンターを使用して、管理ゾーンへのログインに使用できる他の管理者名を追加できます。</p> <p>2 番目（または後続）のプライマリサーバのインストール中に、サーバはデフォルトで最初のプライマリサーバが使用したポートを使用します。それらのポートが 2 番目のプライマリサーバで使用中の場合は、別のポートを指定するように求められます。指定したポートは記録しておいてください。ZENworks コントロールセンターにアクセスための URL で使用する必要があります。</p> <p><b>既存のゾーン</b>：既存の管理ゾーンにインストールする場合は、以下の情報を知っている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ サーバ ID(DNS 名または IP アドレス)。これはゾーン内の既存プライマリサーバです。DNS 名で署名された証明書との継続的な同期を提供するために DNS 名を使用することをお勧めします。</li><li>◆ 管理ゾーン内の既存のプライマリサーバによって使用される SSL ポート。プライマリサーバがデフォルト (443) とは異なるポートを使用する場合は、そのサーバポートを指定します。</li><li>◆ ZENworks コントロールセンターにログインするためのユーザ名デフォルトは「administrator」です。インストールが完了したら、ZENworks コントロールセンターを使用して、管理ゾーンへのログインに使用できる他の管理者名を追加できます。</li><li>◆ 管理者のパスワード。[ユーザ名] フィールドで指定されている ZENworks 管理ユーザの現在のパスワードを指定します。</li></ul>

---

データベースオプション ZENworks 10 Configuration Management には、データベースを設定する必要があります。データベースオプションは最初のサーバがゾーンにインストールされたときにのみ表示されます。ただし、データベースのインストールまたは修復のために特にインストールプログラムを実行することもできます (40 ページのセクション 3.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照)。

次のデータベースオプションがあります。

- ◆ **組み込み Sybase SQL Anywhere:** 組み込みデータベースを現在のサーバに自動的にインストールします。

組み込みデータベースオプションを選択した場合は、これ以上データベースインストールページは表示されません。

- ◆ **リモート Sybase SQL Anywhere:** このデータベースはネットワーク内のサーバにすでに存在している必要があります。現在のサーバに配置することができます。

このオプションを選択するには、41 ページの「リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件」のステップを実行している必要があります。

このオプションは、既存のリモート OEM Sybase データベースへのインストールにも使用します。

- ◆ **Microsoft SQL Server:** 新しい SQL データベースを作成するか、ネットワーク内のサーバ上に存在する既存のデータベースを指定します。現在のサーバに配置することができます。

この時点で新しい SQL データベースを作成しても、41 ページの「Microsoft SQL Server の前提条件」のステップと同じ結果になります。

- ◆ **Oracle:** ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定するために使用できるユーザスキーマを指定します。

新しいユーザスキーマを作成するか、またはネットワーク内のサーバ上に存在する既存のスキーマを指定できます。

このオプションを選択するには、すでに 42 ページの「Oracle の前提条件」のステップに従っている必要があります。

---

**重要:** 外部データベースの場合は、データベースをホストしているサーバが管理ゾーン内の各プライマリサーバと時間同期している必要があります。

---

データベース情報 外部データベースオプション ( [リモート Sybase SQL Anywhere]、[Microsoft SQL Server]、および [Oracle] ) の場合は、次に示す情報を知っておく必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。

- ◆ **すべてのデータベース** : データベースサーバには、Sybase SQL Anywhere、Microsoft SQL、または Oracle データベースがインストールされている必要があります。

- ◆ サーバ名。DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。

---

**重要** : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。

---

- ◆ データベースサーバで使用されるポート :

ポート 2638 は Sybase SQL Anywhere のデフォルトポートで、ポート 1433 は Microsoft SQL Server のデフォルトポートです。

競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。

- ◆ **(オプション)SQL Server のみ** : 名前付きインスタンス (既存の ZENworks データベースをホストする SQL サーバインスタンスの名前)。名前付きインスタンスは、デフォルトである mssqlserver 以外を使用する場合に指定する必要があります。

- ◆ **Oracle のみ** : データベースを作成するテーブルスペースの名前。デフォルトでは、USERS です。

- ◆ **新しいデータベース** :

- ◆ データベース管理者 ([ユーザ名] フィールド) は、データベースに対して必要な操作を正常に実行するために読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。

- ◆ 管理者のデータベースパスワード。

- ◆ **SQL Server または新しいデータベース** :

- ◆ Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールドで指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。

- ◆ Windows または SQL Server 認証のどちらを使用するか。Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザに対するアカウント情報を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザに合致するアカウント情報を提供します。

SQL Server のインストールに、SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知っている必要があります。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。

---

---

**インストール情報 説明**

---

データベースアクセス 外部データベースオプション ( [リモート Sybase SQL Anywhere]、[Microsoft SQL Server]、および [Oracle] ) の場合は、次に示す情報を知っておく必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。

- ◆ **すべてのデータベース**：このサーバには、Sybase SQL Anywhere、Microsoft SQL、または Oracle データベースがインストールされている必要があります。

- ◆ データベース名。zenworks\_MY\_ZONE を希望のデータベース名または既存のデータベース名と置き換えます。
- ◆ データベースユーザ名。このユーザにはデータベースを変更するための読み取り / 書き込み権限が必要です。

Windows 認証も選択されている場合は、新しい SQL データベースを作成するときには指定したユーザがすでに存在している必要があります。ユーザは SQL Server へのログインアクセス権と作成された ZENworks データベースへの読み取り / 書き込みアクセス権を付与されます。

既存のデータベースの場合は、データベースに対する十分な権限を持つユーザを指定します。

- ◆ データベースパスワード。新しいデータベースでは、SQL 認証が選択されている場合は、このパスワードは自動的に生成されます。既存のデータベースでは、データベースへの読み取り / 書き込み権を持っている既存のユーザのパスワードを指定します。

- ◆ **Sybase データベースのみ**：Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前。

- ◆ **Oracle データベースのみ**：データベースを作成するテーブルスペースの名前。デフォルトでは、USERS です。

- ◆ **SQL データベースのみ**：

- ◆ Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールドで指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。
- ◆ Windows または SQL Server 認証のどちらを使用するか。Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザに対するアカウント情報を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザに合致するアカウント情報を提供します。

SQL Server のインストールに、SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知っている必要があります。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。

SSL 設定 (管理ゾーンにインストールされている最初のサーバ用にのみ表示)

SSL 通信を有効にするため、SSL 証明書を ZENworks サーバに追加する必要があります。内部または外部のどちらの認証局 (CA) を使用するかを選択します。

管理ゾーンへのプライマリサーバの後続のインストールでは、最初のサーバのインストールによって確立された CA が使用されます。

---

**重要**：ZENworks 10 Configuration Management のインストール後に、CA タイプを変更することはできません。

---

[デフォルトの復元] ボタンはこのページに最初にアクセスしたときに表示されるパスを復元します。

---

---

## インストール情報 説明

---

**署名 SSL 証明書と秘密鍵** 信頼済み CA 署名証明書および秘密鍵を入力するには、[[選択](#)] をクリックして証明書および鍵ファイルをブラウズして選択するか、またはこのサーバ用に使用する署名証明書 ( [[署名 SSL 証明書](#)] )、および署名証明書に関連付けられている秘密鍵 ( [[秘密鍵](#)] ) へのパスを指定します。

これ以降にゾーンヘプライマリサーバをインストールする際には、最初のサーバのインストール時にゾーン用に設定した CA が使用されます。

Linux サーバまたは Windows サーバへのインストール時に選択すべき外部証明書を作成する方法の詳細については、[38 ページのセクション 3.3.3 「外部認証局の作成」](#)を参照してください。

サイレントインストールを使用してサーバへインストールするための外部証明書を作成する方法の詳細については、[64 ページのセクション 4.2.1 「レスポンスファイルの作成」](#)を参照してください。

**ルート証明書 (オプション)** 信頼済み CA ルート証明書を入力するには、[[選択](#)] をクリックして証明書をブラウズして選択するか、または CA のパブリック X.509 証明書 ( [[CA ルート証明書](#)] ) へのパスを指定します。

**ライセンスキー-UNIX/Linux 向けの環境設定管理、アセット管理、およびアセットインベントリ用** デフォルトで、ページにリストされたすべての ZENworks 10 製品の [[評価](#)] チェックボックスが選択されています。次の製品が付属しています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3
- ◆ ZENworks 10 Asset Management SP3
- ◆ ZENworks 10 Asset Inventory for UNIX/Linux SP3

デフォルト設定を維持する場合は、すべての製品が 60 日のトライアルライセンス付きでインストールされます。

さらに、次のいずれを行うこともできます。

- ◆ **製品の正式ライセンス付きバージョンをインストールする**：製品を購入した際に取得したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、[[評価](#)] チェックボックスは自動的にオフになります。
- ◆ **インストールする製品を選択する**：製品の正式ライセンスバージョンも評価バージョンもインストールしない場合は、製品の [[評価](#)] チェックボックスの選択を手動で解除し、その製品のライセンスキーを指定しないでください。ただし、次の製品のいずれかのライセンスバージョンか評価バージョンをインストールする必要があります。
  - ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3
  - ◆ ZENworks 10 Asset Management SP3

さらに、ZENworks 10 Asset Inventory for UNIX/Linux SP3 のライセンスバージョンまたは評価バージョンをインストールできます。

ZENworks 製品の 1 つだけをアクティブ化したり、評価する場合は、他の ZENworks 製品も自動的にインストールされますが、それらは無効にされます。後から ZENworks コントロールセンターでアクティブ化することもできます。製品をアクティブ化する方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[ZENworks 10 製品のライセンス登録](#)」を参照してください。

---

インストール情報	説明
Patch Management のライセンスキー	<p>ZENworks 10 Patch Management SP3 ソフトウェアは、自動的にインストールされます。ただし、次の条件を満たすときのみ、製品のパッチのダウンロードがアクティブ化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 がライセンスモードまたは評価モードでアクティブである。</li> <li>◆ 別途購入が必要なパッチサブスクリプションライセンスキーが指定されている。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「サブスクリプションライセンスの購入とアクティブ化」を参照してください。</li> </ul> <p>サブスクリプションサービスは、後から ZENworks コントロールセンターでアクティブ化することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks 10 製品のライセンス登録」を参照してください。</p> <p>ライセンスキーの指定では、追加で会社名と電子メールアドレスも指定する必要があります。</p> <p>ZENworks 10 Patch Management SP3 をインストールしない場合は、[アクティブ化] チェックボックスを手動で選択解除し、その製品のライセンスキーを指定しないでください。製品は自動的にインストールされますが、非アクティブ化されます。</p>
インストール前の概要	<p><b>GUI インストール:</b> この時点までに入力された情報を変更するには、[前へ] をクリックします。[インストール] をクリックした後に、ファイルのインストールが開始されます。インストール中に、[キャンセル] をクリックするとインストールを停止できます。その時点までに入力されたファイルがサーバに残ります。</p> <p><b>コマンドラインインストール:</b> この時点までに入力した情報を変更する場合は、必要に応じて何度でも「back」と入力して &lt; Enter &gt; を押します。コマンドを再び前に進めるときには、&lt; Enter &gt; を押して前に行った決定を確定します。</p>

---

**インストール情報** **説明**

---

インストールが完了しました (ロールバックオプション)

インストールエラーが発生した場合は、このページはこの時点で表示されます。それ以外の場合は、[インストール後のアクション] ページの後に表示されます。

**インストール回復:** GUI インストールおよびコマンドラインインストールでは、重大なインストールエラーが発生した場合、インストールをロールバックしてサーバを直前の状態に戻すことができます。このオプションは、別のインストールページに表示されています。それ以外の場合は、次の2つのオプションがあります。

- ◆ 直前のインストールが途中で再びインストールする場合は、キャンセルしたインストールの進捗状況によってインストールをリセットするオプションが表示されます。リセットを選択した場合は、キャンセルされたインストール中に行われた設定が上書きされます。
- ◆ 正常に完了されたインストールを元に戻すには、[75 ページの第 7 章「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」](#)の指示に従ってください。

重大なインストールエラーが発生した場合は、[ロールバック] を選択してサーバを直前の状態に戻すことができます。インストールプログラムの終了時に、サーバは再起動されません。ただし、インストールを完了するには、サーバを再起動する必要があります。

インストールを続行するか、ロールバックするかを決定するには、エラーが一覧表示されたログファイルを確認して、アクションに対して重大なインストールエラーがあるかどうかを判別します。続行を選択した場合は、サーバを再起動してインストールプロセスを完了した後ログに記載されている問題を解決します。

GUI インストールでログファイルにアクセスするには、[ログ表示] をクリックします。コマンドラインインストールでは、ログファイルへのパスが表示されます。

---

---

**インストール情報 説明**

---

インストール後の操作 ソフトウェアのインストールが正常に完了した後に実行するアクションを選択するためのオプションが用意されています。

- ◆ GUI インストールの場合、以下のオプションがページに表示されます。いくつかの項目はデフォルトで選択されています。オプションを選択したり選択解除したりするには、チェックボックスをクリックします。次に [次へ] をクリックして進みます。
- ◆ コマンドラインインストールでは、オプションはオプション番号付きで一覧表示されます。オプションを選択したり選択解除したりするには、番号を入力して選択状態を切り替えます。選択項目を設定した後は、番号を入力せずに <Enter> を押して進みます。

次の利用可能なアクションから選択します。

- ◆ **ZENworks コントロールセンターを実行する** : (GUI 付きインストールの場合のみ) 再起動後 (Windows のみ)、または手動で再起動を選択した場合あるいは Linux サーバにインストールした場合は即時に、ZENworks コントロールセンターをデフォルトの Web ブラウザ上で自動的に開きます。GUI なしの Linux インストールでは、GUI 対応デバイスを使用して ZENworks コントロールセンターを実行する必要があります。

Oracle 10g データベースでは、管理者名は大文字と小文字が区別されます。インストール時に自動的に作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントは、最初の文字に大文字を使用しています。ZENworks コントロールセンターにログインするには、「Administrator」と入力する必要があります。

- ◆ **ZENworks コントロールセンター用のショートカットをデスクトップに配置する** : (Windows のみ) デスクトップにショートカットを配置します。
- ◆ **[スタートメニュー] に ZENworks コントロールセンターへのショートカットを配置する** : (Windows のみ) [スタート] メニューにショートカットを配置します。
- ◆ **Readme ファイルを表示する** : GUI インストールの場合は、再起動後 (Windows のみ)、または手動で再起動するよう選択した場合あるいは Linux サーバにインストールした場合は即時に、ZENworks 10 Configuration の Readme がデフォルトブラウザで開きます。Linux コマンドラインインストールの場合は、Readme への URL が一覧表示されます。
- ◆ **インストールログを表示する** : 再起動した後、または手動で再起動を選択した場合には即時にデフォルトの XML ビューア (GUI インストール) にインストールログが表示されます。Linux コマンドラインインストールの場合は、情報のみが一覧にされます。

ZENworks  
System Status  
Utility

インストールプログラムを閉じる前に、ZENworks サービスのハートビートチェックを実行できます。結果はインストールログにポストされます。

---

---

**インストール情報 説明**

---

再起動 (再起動しない) 正常なインストール時に、すぐに再起動するか後から再起動するかを選択できます。

- ◆ **はい、システムを再起動します**：このオプションを選択した場合は、プロンプトされたときにサーバにログインします。サーバに初めてログインしたときは、データベースにインベントリデータが入力されるため、数分間かかる場合があります。
- ◆ **いいえ、システムを後で手動で再起動します**：このオプションを選択した場合は、データベースにただちにインベントリデータが入力されます。

---

**注**：このオプションは Windows デバイスに対してのみ表示されます。

---

データベースへの入力プロセスが原因で、再起動中、またはインストールプログラムが閉じた直後 (再起動しないよう選択した場合は、CPU 使用率が高くなる可能性があります。このデータベースアップデートプロセスのため、サービスの起動や ZENworks コントロールセンターへのアクセスが遅くなる場合があります。

通常、再起動直後に行われる Patch Management のダウンロード中も CPU 利用率が高くなる場合があります。

インストールの完了 ZENworks 10 Configuration Management 用のファイルがすべてインストールされると、選択したアクションが実行されます (それらのアクションを選択しておいた場合)。具体的には、次のようなメカニズムがあります。

- ◆ (Windows のみ) ZENworks Adaptive Agent アイコンを通知エリアに作成する (システムトレイ)
- ◆ (Windows のみ) ZENworks コントロールセンターアイコンをデスクトップまたはスタートメニューに作成する
- ◆ Readme を表示する
- ◆ インストールログファイルを表示する
- ◆ ZENworks コントロールセンターを開く

---

**重要**：コマンドラインを使用して Linux サーバをインストールしていて、現在のセッションで zman コマンドを実行する予定の場合は、新たにインストールされた /opt/novell/zenworks/bin ディレクトリをセッションのパスに追加する必要があります。セッションをログアウトしてから再度ログインして、PATH 変数をリセットします。

---

## 4.2 無干渉インストールの実行

レスポンスファイルを使用して、ZENworks 10 Configuration Management SP3 の無干渉インストールを実行できます。デフォルトのレスポンスファイル

(*DVD\_drive:\Disk1\InstData\silentinstall.properties* に収録) を編集するか、またはインストールを実行して、基本的なインストール情報が記載された独自のバージョンのレスポンスファイルを作成し、必要に応じてそのコピーを編集できます。

組み込み Sybase データベースの場合、無干渉インストールを実行するには、必ずレスポンスファイルを作成する必要があります。外部データベースを使用するサーバ用に生成されたレスポンスファイルを再利用することはできません。

次の手順を実行してレスポンスファイルを作成し、それを使用して無干渉インストールを実行します。

- ◆ 64 ページのセクション 4.2.1 「レスポンスファイルの作成」
- ◆ 65 ページのセクション 4.2.2 「インストールの実行」

## 4.2.1 レスポンスファイルの作成

1 次のいずれかの方法で、サーバ上で ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールの実行可能ファイルを実行します。

- ◆ **Windows GUI:** `DVD_drive:\setup.exe -s`
- ◆ **Linux GUI:** `sh /media/cdrom/setup.sh -s`  
sh コマンドを使用すると、権限の問題を解決できます。
- ◆ **Linux コマンドライン:** `sh /media/cdrom/setup.sh -e -s`

インストール引数の詳細については、87 ページの付録 A 「インストール実行可能引数」を参照してください。

2 (オプション) Windows サーバで、[はい、再起動を有効にしてレスポンスファイルを生成します。] オプションがオンになっていることを確認し、サイレントインストールの完了後にサーバが自動的に再起動するようにします。

サイレントインストールではインストール進行状況バーは表示されません。

3 プロンプトが表示されたら、カスタムレスポンスファイルのパスを入力します。

-s 引数をそれだけで使用する場合、インストールプログラムによってレスポンスファイルへのパスがプロンプト表示されます。デフォルトのファイル名は `silentinstall.properties` です。これは後から変更できます (ステップ 4g を参照してください)。

4 管理ゾーンと外部データベースのパスワードをカスタムレスポンスファイルに追加します。

カスタムレスポンスファイルの作成時に入力した外部データベースパスワードはレスポンスファイルに保存されていないため、無干渉インストール時にレスポンスファイルが正しく提供されるようにするには、データベースと管理ゾーンのパスワードをレスポンスファイルの各コピーに追加する必要があります。

オプションで、無干渉インストールにパスワードを渡す環境変数を作成することもできます。この手順はパスワード情報が保存されているレスポンスファイルに含まれています。

レスポンスファイルを編集しているときに、無干渉インストール用のカスタマイズに必要なその他の変更を実行できます。レスポンスファイルにはさまざまなセクションの手順指示が含まれています。

外部データベースおよび管理ゾーンのパスワードをレスポンスファイルに追加する

**4a** レスポンスファイルをテキストエディタで開きます。

カスタムレスポンスファイルは、ステップ 3 で指定した場所にあります。

デフォルトのレスポンスファイルを編集する場合、ファイルは `DVD_drive:\Disk1\InstData\silentinstall.properties` にあります。

**4b** `ADMINISTRATOR_PASSWORD=` を検索します。

**4c** `$lax.nl.env.ADMIN_PASSWORD$` を実際のパスワードに置き換えます。

たとえば、パスワードが novell の場合、エントリーは次のようになります。

```
ADMINISTRATOR_PASSWORD=novell
```

- 4d (オプション) 外部データベースを使用する場合は、  
DATABASE\_ADMIN\_PASSWORD= という行を検索して、  
\$lax.nl.env.ADMIN\_PASSWORD\$ を実際のパスワードに置き換えます。
- 4e (オプション) 外部データベースを使用する場合は、  
DATABASE\_ACCES\_PASSWORD= という行を検索して、\$lax.nl.env.ADMIN\_PASSWORD\$  
を実際のパスワードに置き換えます。
- 4f ファイルを保存して、エディタを終了します。
- 4g さまざまなインストールシナリオに対していくつでも異なる名前のコピーを作成し、それぞれのコピーを必要に応じて修正してそれぞれを使用されるサーバにコピーします。

既存の管理ゾーンに別のプライマリサーバを追加するには、次の情報をレスポンスファイルに指定する必要があります。

```
PRIMARY_SERVER_ADDRESS=$Primary_Server_IPaddress$  
PRIMARY_SERVER_PORT=$Primary_Server_port$  
PRIMARY_SERVER_CERT=-----BEGIN CERTIFICATE-----  
MIID9DCCLotsOfEncryptedCharactersSja+bY05Y=-----END CERTIFICATE-----
```

ここで

PRIMARY\_SERVER\_ADDRESS は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

PRIMARY\_SERVER\_PORT は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバで使用される SSL ポートです。デフォルトでは、443 です。

PRIMARY\_SERVER\_CERT= は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバで指定した証明書です。証明書は x509 証明書の base64 エンコード文字列フォーマットで、証明書文字列は 1 行で指定する必要があります。これは単に証明書情報の一例です。

- 5 カスタムレスポンスファイルの変更が完了したら、[ステップ 3](#) で指定したパスから、このファイルを無干渉インストールに使用する各サーバにファイルをコピーします。
- 6 更新されたレスポンスファイルを使用するには、[65 ページのセクション 4.2.2 「インストールの実行」](#)に進みます。

## 4.2.2 インストールの実行

- 1 無干渉インストールを実行するインストールサーバで、*Novell ZENworks 10 Configuration Management SP3* インストール DVD を挿入します。
  - Windows の場合は言語を選択するインストールページが表示されたら [キャンセル] をクリックして GUI インストールを終了します。
  - Linux の場合は、インストール DVD をマウントします。
- 2 無干渉インストールを開始するには、コマンドで -f オプションを使用します。
  - Windows の場合は、`DVD_drive:\setup.exe -s -f path_to_file` を実行します。
  - Linux の場合は、`sh /media/cdrom/setup.sh -s -f path_to_file` を実行します。

`path_to_file` には、64 ページのセクション 4.2.1 「レスポンスファイルの作成」で作成したレスポンスファイルのフルパスか、または `silentinstall.properties` ファイル (このファイル名を使用する必要があります) が含まれるディレクトリを指定します。

sh コマンドを使用して、権限の問題を解決します。

更新されたレスポンスファイルの名前を変更した場合は、新しい名前にパスを含めません。

ファイル名が指定されていない場合、またはパスあるいはファイルが存在しない場合は、`-f` パラメータは無視され、デフォルトのインストール (GUI またはコマンドライン) が無干渉インストールの代わりに実行されます。

- 3 インストールが完了し、サーバが再起動したら、次の操作のいずれかで、ZENworks 10 Configuration Management が実行されていることを確認します。

- ◆ **ZENworks コントロールセンターの実行**

ZENworks コントロールセンターが自動的に起動していない場合は、次の URL を使用して Web ブラウザで ZENworks コントロールセンターを開きます。

```
https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks
```

これは ZENworks をインストールしたばかりのサーバか、または正規のワークステーションから実行できます。

- ◆ **GUI を使用して Windows サービスをチェックする**

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks サーバ] サービスの状態を確認します。

実行されていない場合は、ZENworks サービスを開始します。[Novell ZENworks サーバ] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

[再起動] オプションは、すでに実行されているすべての関連するサービスを停止し、Novell ZENworks Loader を含め、正しい順番で開始します。

- ◆ **コマンドラインを使用して Windows サービスをチェックする**

サーバで [スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックして次のコマンドを実行します。

```
ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure  
-c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **特定のサービスのコマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- 4 無干渉インストールを実行して管理ゾーン用に別のプライマリサーバを作成するには、[ステップ 1](#)に戻ります。それ以外の場合は、[ステップ 5](#)に進みます。
- 5 インストールが完了したら、[67 ページのセクション 4.3 「インストール後のタスク」](#)に進みます。

## 4.3 インストール後のタスク

ZENworks 10 Configuration Management SP3 が正常にインストールされたら、次のタスクを実行します。

- ◆ ZENworks データベースを信頼できる方法で定期的にバックアップします。

ZENworks データベースのバックアップ方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「データベース管理」を参照してください。

- ◆ データベースの資格情報を取得し、書き留めます。

内部データベースの資格情報を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
zman dgc -U administrator_name -P administrator_password
```

または

```
zman database-get-credentials -U administrator_name -P administrator_password
```

外部データベースの資格情報を取得するには、データベース管理者にお問合せください。

- ◆ ZENworks サーバを信頼できる方法でバックアップします (1 回だけ実行する必要があります)。

ZENworks サーバのバックアップ方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「ZENworks サーバのバックアップ」を参照してください。

- ◆ 認証局を信頼できる方法でバックアップします。

認証局のバックアップ方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「認証局のバックアップ」を参照してください。

- ◆ (条件付き) Windows プライマリサーバでファイアウォールをオンにする場合は、ZENworks 10 Configuration Management Imaging アプリケーションを Windows ファイアウォール例外リストに加えることによって、それらのアプリケーションがファイアウォールを通過できるように、サーバを設定する必要があります。

- ◆ novell-pbserv.exe
- ◆ novell-proxydhcp.exe

- ◆ novell-tftp.exe
- ◆ novell-zmgprebootpolicy.exe

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [68 ページの「Windows Server 2003 のファイアウォールへの例外として Imaging アプリケーションを追加する」](#)
- ◆ [68 ページの「Windows Server 2008 のファイアウォールへの例外として Imaging アプリケーションを追加する」](#)

### Windows Server 2003 のファイアウォールへの例外として Imaging アプリケーションを追加する

- 1 デスクトップの [スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [Windows ファイアウォール] をダブルクリックします。  
[Windows ファイアウォール] ウィンドウが表示されます。
- 3 [例外] タブをクリックします。
- 4 [プログラムの追加] をクリックします。  
[プログラムの追加] ウィンドウが表示されます。
- 5 [参照] をクリックし、winpe.wim を参照して選択します。  
novell-pbserv.exe を含むすべての Imaging アプリケーションは、  
zenworks\_installation\_directory\novell\zenworks\bin\preboot ディレクトリにあります。
- 6 [OK] をクリックします。  
novell-pbserv.exe が [プログラムとサービス] のリストに追加され、自動的に有効になります。
- 7 [ステップ 4](#) から [ステップ 6](#) までの手順を繰り返して、次の Imaging アプリケーションを [例外] リストに追加します。
  - ◆ novell-proxydhcp.exe
  - ◆ novell-tftp.exe
  - ◆ novell-zmgprebootpolicy.exe
- 8 [OK] をクリックします。

### Windows Server 2008 のファイアウォールへの例外として Imaging アプリケーションを追加する

- 1 デスクトップの [スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [Windows ファイアウォール] をダブルクリックします。  
[Windows ファイアウォール] ウィンドウが表示されます。
- 3 左ペインで、[Windows Firewall でプログラムまたは機能を許可する] をクリックします。
- 4 [例外] タブをクリックします。
- 5 [プログラムの追加] をクリックします。  
[プログラムの追加] ウィンドウが表示されます。

- 6 [参照] をクリックし、winpe.wim を参照して選択します。  
novell-pbserv.exe を含むすべての Imaging アプリケーションは、  
zenworks\_installation\_directory\novell\zenworks\bin\preboot ディレクトリにあります。
- 7 [OK] をクリックします。  
novell-pbserv.exe が [プログラムとサービス] のリストに追加され、自動的に有効になります。
- 8 **ステップ 5** から **ステップ 7** までの手順を繰り返して、次の Imaging アプリケーションを [例外] リストに追加します。
  - ◆ novell-proxydhcp.exe
  - ◆ novell-tftp.exe
  - ◆ novell-zmgprebootpolicy.exe
- 9 [OK] をクリックします。



# ZENworks Adaptive Agent の Windows へのインストール

ZENworks から管理するデバイスにはすべて ZENworks Adaptive Agent が展開されている必要があります。Adaptive Agent は、管理対象デバイス上で、ソフトウェアの配布、ポリシーの適用、ソフトウェアおよびハードウェアインベントリの収集、およびその他すべての ZENworks 管理タスクを実行します。

ZENworks Adaptive Agent の展開の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス](#)』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

---

**重要** : ZENworks Adaptive Agent を ZENworks 7 Desktop Management Agent がすでにインストールされているデバイスにインストールする場合は、共存の問題を考慮する必要があります。まず、[31 ページの第 2 章「その他の ZENworks 製品との共存](#)」をレビューしてから、『[ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス](#)』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

---



# ZENworks Adaptive Agent の Linux へのインストール

# 6

Linux デバイスを ZENworks サテライトとして使用するには、Linux Adaptive Agent パッケージをデバイスにインストールしてサテライトとして設定する必要があります。デバイスをサテライトとして設定する方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「サテライト」を参照してください。

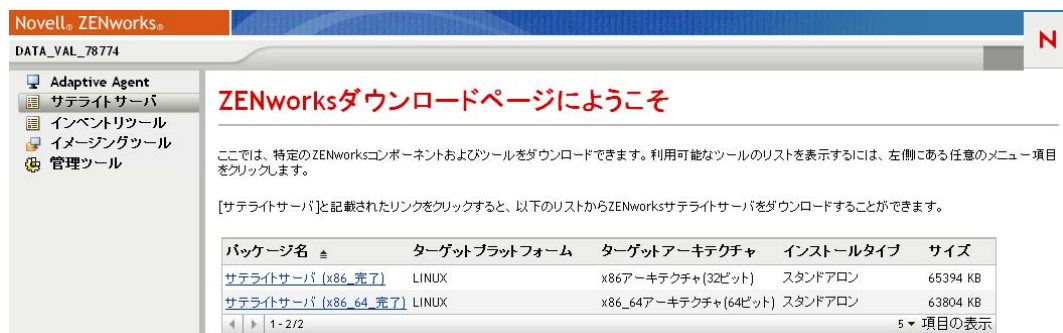
Linux Adaptive Agent パッケージを Linux デバイスにインストールするには、次の手順に従います。

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の 15 ページのセクション 1.2 「サテライト要件」参照)。

- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



The screenshot shows the ZENworks download page in a browser. The page title is "ZENworksダウンロードページにようこそ". Below the title, there is a table listing available packages for Linux. The table has columns for Package Name, Target Platform, Target Architecture, Install Type, and Size. Two packages are listed: "サテライトサーバ [x86\_完了]" and "サテライトサーバ [x86\_64\_完了]".

パッケージ名	ターゲットプラットフォーム	ターゲットアーキテクチャ	インストールタイプ	サイズ
サテライトサーバ [x86_完了]	LINUX	x86アーキテクチャ(32ビット)	スタンドアロン	65394 KB
サテライトサーバ [x86_64_完了]	LINUX	x86_64アーキテクチャ(64ビット)	スタンドアロン	63804 KB

各アーキテクチャ (32 ビットと 64 ビット) に 1 つのスタンドアロンパッケージがあります。

- 3 [サテライトサーバ] タブをクリックします。
- 4 使用したい展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存し、`chmod 755 filename` コマンドの実行により、ファイルに実行可能権限を設定します。

このパッケージで使用できるオプションについては、74 ページの「パッケージオプション」を参照してください。

- 5 端末ウィンドウで、パッケージをダウンロードしたディレクトリに移動し、コマンド `/filename` を実行してデバイスでパッケージを起動します。ここで、`filename` はステップ 4 でダウンロードしたパッケージの名前です。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \サーバフォルダ構造または \ワークステーションフォルダ構造の下層に表示されます。

インストール完了後、デバイスがネットワークに接続している場合は、エージェント内の ZENworks 管理デーモンが自動的に管理ゾーンに登録されます。

これらのコマンドは、`zac` コマンドラインユーティリティを使用して、デバイス上でローカルに実行できます。`xsession` セッションまたは `ssh` セッションを使用して、エージェントを Linux デバイスにインストールした場合は、`/opt/novell/zenworks/bin/zac` コマンドを入力して `zac` を実行する必要があります。ただし、再ログイン後は、完全なパスを入力しなくても、直接、コマンドラインから `zac` を実行できます。

## パッケージオプション

コマンドラインから展開パッケージを起動する場合、次に表示されているオプションを使用できます。構文は次のとおりです。

```
package name option1 option2 ...
```

次に例を示します。

```
SatelliteServer.bin -k regkey1
```

**-d *target\_path*:** 指定したターゲットパスにファイルを抽出します。デフォルトのターゲットパスは、`c:\opt\novell\zenworks\stage` です。

**-h:** ヘルプ情報を表示します。

**-k:** 管理ゾーンのデバイスの登録に使用する登録キー

**-l:** パッケージコンテンツの一覧表示のみ行います。パッケージの抽出も、インストールの実行も行いません。

**-n:** パッケージを抽出しますが、インストールは実行しません。

**-v:** 詳細画面ロギングをオンにします。

上記のオプションに加えて、パッケージを作成する際に使用できる 2 つの BUILDTIME オプション (`-f file` および `-o output_file`) があります。これらのオプションは、Novell サポートから指示があった場合のみ使用してください。

# ZENworks ソフトウェアのアンインストール

# 7

ZENworks® ソフトウェアをプライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスからアンインストールできます。ZENworks Reporting Server がプライマリサーバにインストールされている場合は、まず、その ZENworks Reporting Server をアンインストールしてから (『ZENworks 10 Configuration Management レポートングサーバインストールガイド』の「ZENworks Reporting Server のアンインストール」参照)、ZENworks ソフトウェアをアンインストールする必要があります。

組み込み ZENworks データベースを削除するには、管理ゾーンをホストしているプライマリサーバから ZENworks ソフトウェアを削除するのが唯一の方法です。外部データベースを使用している場合、データベースはアンインストール後も変更されません。外部 ZENworks データベースをアンインストールするには、データベース製造業者から提供されている指示を参照してください。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 75 ページのセクション 7.1 「ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序」
- ◆ 76 ページのセクション 7.2 「Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール」
- ◆ 80 ページのセクション 7.3 「Linux プライマリサーバのアンインストール」
- ◆ 82 ページのセクション 7.4 「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Linux サテライトのアンインストール」

## 7.1 ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序

ZENworks ソフトウェアを管理ゾーンの選択したコンポーネント (プライマリサーバや管理対象デバイスなど) からアンインストールする際、特定の手順に従う必要はありません。


ただし、ZENworks ソフトウェアを管理ゾーンのすべてのコンポーネントから完全に削除する (環境から効果的に ZENworks を削除する) 場合は、インストール順序とは逆の順序でソフトウェアをアンインストールすることを推奨します。つまり、次のようになります。

1. Adaptive Agent を各管理対象デバイスからアンインストールします。
2. すべてのサテライトデバイスをアンインストールします。
3. データベースのプライマリサーバ以外の、すべてのプライマリサーバをアンインストールします。データベースのプライマリサーバは、組み込み ZENworks データベースをホストしているプライマリサーバです。または、外部 ZENworks データベースを使用している場合は、それがインストールされた最初のプライマリサーバです。

データベースのプライマリサーバの前にすべてのプライマリサーバをアンインストールしないと、データベースのプライマリサーバを削除したときに、これらのプライマリサーバは孤立し、ZENworks コントロールセンターからアンインストールできなくなります。

4. データベースのプライマリサーバをアンインストールします。

## 7.2 Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール

ZENworks ソフトウェアを Windows サテライトからアンインストールする前に、デバイスを管理対象デバイスに降格する場合は、サテライトの役割 ( 認証、イメージング、コンテンツ、コレクション ) をデバイスから削除した後でのみ、アンインストールプログラムを実行する必要があります。役割が Windows 管理対象デバイスから削除されたことを確認するには、通知領域の  アイコンをダブルクリックします。左のナビゲーションペインに [サテライト] ページが表示されなくなります。

ZENworks Adaptive Agent をアンインストールしても、以前適用した「プリンタ」ポリシーはロールバックされず、「ブラウザブックマーク」ポリシー設定はユーザのお気に入りから削除されません。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Policy Management リファレンス』の「ポリシー管理のトラブルシューティング」を参照してください。

Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスをアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 サーバまたは管理対象デバイスで、次のコマンドを実行します。

```
zenworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\ZENworksUninstall.exe
```

- 2 アンインストール時には次の表の情報を参照してください。

情報はアンインストールフローの順番でリストされています。

情報	説明
デバイス登録先ゾーンの管理者情報	<p>次の設定を行います。</p> <p><b>プライマリサーバ:</b> 次の形式でプライマリサーバの IP アドレスを指定します。</p> <p><code>https:// IP_address または DNS_name_of_the_server:port_number</code></p> <hr/> <p><b>注:</b> ポート番号は、デフォルトポートを使用していない場合に指定する必要があります。</p> <hr/> <p><b>ユーザ名:</b> ユーザ名を指定します。デフォルトでは、ユーザ名は administrator です。</p> <p><b>パスワード:</b> [ユーザ名] フィールドで指定されている ZENworks 管理ユーザのパスワードを指定します。</p> <p><b>ローカルアンインストールのみ (ゾーン内のデバイスを保持):</b> このオプションは、デバイスから ZENworks ソフトウェアをアンインストールしたい場合にのみ選択します。デバイスは引き続き管理ゾーンに登録されています。</p> <hr/> <p><b>注:</b> ZENworks Adaptive Agent をアンインストールする権限があることを確認します。ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ( [環境設定] タブ &gt; [管理ゾーンの設定] &gt; [デバイス管理] &gt; [ZENworks エージェント] &gt; [全般] )。</p> <hr/> <p>このオプションは、ZENworks をデバイスから削除するときに管理ゾーンとの接続がない場合、またはデバイスの ZENworks インストールが破損していて再インストールする必要がある場合に役立ちます。</p> <p>[ローカルアンインストールのみ (ゾーン内のデバイスを保持)] オプションを選択した場合は、[次へ] をクリックして [保持するコンポーネント] ページを表示します。</p>

情報	説明
<p>実行する操作</p>	<p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ゾーンからデバイスをリタイア</b>：管理対象デバイス上で ZENworks の処理をすべて無効にします。ただし、ZENworks Adaptive Agent はアンインストールされず、デバイスは引き続き管理ゾーンに登録されています。このオプションは管理対象デバイスでのみ使用できます。</li> <li>◆ <b>ZENworks エージェントをアンインストールしてデバイスをゾーンから登録解除する</b> ZENworks Adaptive Agent をデバイスからアンインストールし、管理ゾーンからデバイスを削除します。</li> </ul> <hr/> <p><b>注</b>：ZENworks Adaptive Agent をアンインストールする権限があることを確認します。ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ( [環境設定] タブ &gt; [管理ゾーンの設定] &gt; [デバイス管理] &gt; [ZENworks エージェント] &gt; [全般] )。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ZENWorks サーバをアンインストールしてデバイスをゾーンから登録解除する</b> ZENworks サーバをデバイスからアンインストールします。</li> </ul> <hr/> <p><b>警告</b>：このデバイスが管理ゾーンをホストしている場合は、そのゾーンも削除されます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>デバイスを他のゾーンに転送</b>：管理対象デバイスを既存のゾーンから登録解除して、新しい管理ゾーンに再登録します。このオプションは管理対象デバイスでのみ使用できます。</li> </ul> <p>[デバイスを他のゾーンに転送] オプションを選択すると、[新しいゾーンの情報] ページが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>サテライトサーバの降格</b>：サテライトを管理対象デバイスに降格し、サーバに割り当てられていた役割をすべて削除します。このオプションはサテライトでのみ使用できます。</li> </ul>
<p>新しいゾーン情報</p>	<p>このページは、[アクション] ページで [デバイスを他のゾーンに転送] オプションを選択した場合にのみ表示されます。</p> <p>次の設定を行います。</p> <p><b>新しいプライマリサーバ</b>：次の形式で新しいプライマリサーバの IP アドレスを指定します。</p> <p><code>https:// IP_address または DNS_name_of_the_server.port_number</code></p> <hr/> <p><b>注</b>：ポート番号は、デフォルトポートを使用していない場合に指定する必要があります。</p> <hr/> <p><b>ユーザ名</b>：ユーザ名を指定します。デフォルトでは、ユーザ名は administrator です。</p> <p><b>パスワード</b>：[ユーザ名] フィールドで指定されている ZENworks 管理ユーザのパスワードを指定します。</p>

情報	説明
保持するコンポーネント	<p>このページは、プライマリサーバをアンインストールするよう選択し、 [ローカルアンインストールのみ (ゾーン内のデバイスを保持)] オプションを選択したか、またはイメージングの役割を持つサテライトサーバに対して [サテライトサーバの降格] オプションを選択した場合にのみ表示されます。</p> <p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ZENworks プレエージェント</b>: ZENworks プレエージェントはデバイスにインストールしたままにしますが、その他の ZENworks ソフトウェアはすべて削除します。デフォルトでは、このオプションは選択されません。プレエージェントはデバイスに残る場合、アドバタイズされた検出要求に応答し、IP ベースの検出がデバイス上で実行された場合、ZENworks Ping 要求にも応答します。</li> </ul> <p>ZENworks をデバイスからアンインストールしてから ZENworks プレエージェントをデバイスから削除するには、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「デバイスからの ZENworks プレエージェントの削除」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>CASA</b>: CASA ソフトウェアをインストールしたままにします。CASA はその他のソフトウェアプログラムで使用される可能性があるため、このオプションはデフォルトで選択されています。</li> <li>◆ <b>ZENworks Imaging ファイル</b>: ZENworks Imaging ファイルをデバイスに残します。このオプションはデフォルトで選択されていません。</li> </ul>
アンインストールの概要	<p>注: [サテライトサーバの降格] オプションを選択していて、そのデバイスにイメージングの役割が設定されている場合や、そのデバイスがプライマリサーバの場合、使用可能なオプションは [ZENworks Imaging ファイル] だけです。</p> <p>情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンをクリックして情報を変更します。</p>
ステータス	<p>アンインストールの状態を表示します。</p> <p>デフォルトでは、[今すぐ再起動] オプションが選択されています。</p> <p>再起動を行うとアンインストールプロセスが完了します。いくつかのファイルはデバイスが再起動されるまで削除されません。</p>

3 [終了] をクリックしてアンインストールを完了します。

[今すぐ再起動] を選択した場合は、デバイスが再起動されてアンインストールは完了します。選択しない場合は、再起動するまでアンインストールは完了しません。

4 デバイスを再起動した後に以下の場所にファイルが残っている場合は、手動で削除することができます。

- ◆ **CASA**: アンインストール時に CASA を保持するよう選択したものの、後で削除したくなった場合は、Windows の [プログラムの追加と削除] から削除できます。CASA のアンインストールを選択した後も c:\program files\novell\casa ディレクトリが存在する場合は、手動で削除できます。
- ◆ **ZENworks**: ログファイルはレビュー用に故意に残されています。いつでも手動で `ZENworks_installation_path\ZENworks` ディレクトリを削除できます。

- 5 Windows の場合、[ZENworks コントロールセンター] アイコンがデスクトップに残っているときは、手動で削除できます。
- 6 (条件付き)ZENworks エージェントをアンインストールした場合は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 がアンインストールされた (再起動後の)Windows 管理対象デバイスからレジストリエントリを手動で削除する必要があります。
  - 6a Windows レジストリエディタを起動します。
  - 6b 次のファイルを検索し、それらのレジストリエントリを削除します。

```
nalshell.dll
nalui.dll
nalredir.tlb
msrdp.ocx
```
  - 6c (条件付き)Windows 2000 では、HKey\_Local\_Machine\Software\Netware を削除します。
  - 6d Windows レジストリエディタを閉じます。

## 7.3 Linux プライマリサーバのアンインストール

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールする場合、管理ゾーンからデバイスを削除するか (登録解除する)、または登録したままにできます。次のセクションでは、両方のアンインストールオプションの手順を説明します。

- ◆ 80 ページのセクション 7.3.1 「ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する」
- ◆ 81 ページのセクション 7.3.2 「デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする」

### 7.3.1 ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールして管理ゾーンからデバイスを削除 (登録解除) するには、サーバコンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/zenuninstall -x -s http://IPaddress_of_the_server:port_number -u username -p password [options]
```

各要素は次のように指定します。

-x、--remove = デバイスから ZENworks ソフトウェアを削除して、ゾーンからデバイスを削除します。

-s = プライマリサーバの IP アドレスと、サーバが実行されているポート番号。IP アドレスとポート番号は `http://IPaddress_of_the_server:port_number` の形式で指定する必要があります。

---

**注:** プライマリサーバがデフォルトポート (80) で実行している場合は、-s 引数を指定する必要はありません。ただし、プライマリサーバがデフォルトポートで実行されていない場合は、ポート番号とともにこの引数を指定する必要があります。

---

-u = 管理ゾーン管理者のユーザ名。

-p = ゾーン管理者のパスワード。

このコマンドには次のオプションを指定することもできます。

表 7-1 アンインストールオプション

オプション	機能
-z, --zone	デバイスの現在のゾーンの名前。
-g, --guid	デバイスの GUID。
-l, --list	アンインストールする複数のパッケージをセミコロンで区切った順序指定リスト。
-L, --leave-packages	サードパーティ製パッケージを保持します。少なくとも、保持するパッケージの最初の 3 文字を指定する必要があります。複数のパッケージ名をカンマ (,) で区切って指定することもできます。
-c, --local-only	ZENworks ソフトウェアをデバイスからアンインストールしますが、ゾーンからはデバイスを削除しません。
-o, --oem	ZENworks プレエージェントを保持しますが、ZENworks Adaptive Agent パッケージをアンインストールします。
-i, --delete-images	指定したデバイスから ZENworks Imaging ファイルを削除します。
-a, --remove-auth	ZENworks 10 Configuration Management SP3 によってインストールされた、または Novell サポート Web サイトから直接ダウンロードしてインストールされた認証ソフトウェア (CASA) をアンインストールします。-a オプションを指定しないと、CASA パッケージは保持されます。
-d, --remove-log-dir	ログディレクトリを削除します。
-q, --quiet	サイレントインストールを実行します。
-h, --help	メッセージを表示し、ヘルプを終了します。

### 7.3.2 デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてデバイスを管理ゾーンに登録したままにするには、サーバコンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/zenuninstall -x -s http://IPaddress_of_the_server:port_number -u username -p password [options]
```

このコマンドには次のオプションを指定することもできます。

表 7-2 アンインストールオプション

オプション	機能
-c, --local-only	ZENworks ソフトウェアをデバイスからアンインストールしますが、ゾーンからはデバイスを削除しません。
-a, --remove-auth	ZENworks 10 Configuration Management SP3 によってインストールされた、または Novell サポート Web サイトから直接ダウンロードしてインストールされた認証ソフトウェア (CASA) をアンインストールします。-a オプションを指定しないと、CASA パッケージは保持されます。
-h, --help	メッセージを表示し、ヘルプを終了します。

このコマンドは、管理ゾーンからデバイスを削除するものではありません。

## 7.4 ZENworks 10 Configuration Management SP3 Linux サテライトのアンインストール

Linux サテライトで、次のタイプのアンインストールを実行できます。

- ◆ [82 ページのセクション 7.4.1 「ゾーンレベルでのアンインストール」](#)
- ◆ [84 ページのセクション 7.4.2 「ローカルアンインストール」](#)

### 7.4.1 ゾーンレベルでのアンインストール

ゾーンレベルでのアンインストールでは、Linux サテライトを降格し、割り当てられているサテライト役割を削除します。その後は、管理ゾーンからデバイスを削除し、デバイスから ZENworks Adaptive Agent をアンインストールできます。

- ◆ [82 ページの「Linux サテライトの降格」](#)
- ◆ [83 ページの「ZENworks Adaptive Agent のアンインストールとゾーンからのデバイスの登録解除」](#)

#### Linux サテライトの降格

Linux デバイスにサテライト役割が割り当てられている場合は、サテライトの役割 ( 認証、イメージング、コンテンツ、コレクション ) を削除することによってサテライトを降格します。

- 1 Linux サテライトコンソールプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin/uninstall` と入力してアンインストールプログラムを起動します。
- 2 ロケール番号を入力して、アンインストールプログラムを実行したいロケール ( 言語 ) を選択します。

デフォルトのロケール ( 英語 ) を選択して、2 を入力するか **Enter** を押します。

**ヒント:** プロンプトが表示されたときに (Enter) キーを押すと、アンインストールプログラムはデフォルト ( 括弧内に表示されている値 ) を受け入れます。

- 3 概要テキストを読み、**Enter** を押します。

- 4 [アンインストールのタイプ] 画面で、<Enter> を押して [サテライトサーバの降格] オプションを選択します。
- 5 [ZENworks 管理ゾーンの情報] 画面で、Linux サテライトが登録されているプライマリサーバの IP アドレスを入力します。
- 6 プライマリサーバがリスンするポート番号を入力します。  
デフォルトポートの 443 を選択して、Enter を押します。
- 7 ゾーン管理者のユーザ名を入力します。  
デフォルトのユーザ名 (Administrator) を使用するには、Enter を押します。
- 8 ゾーン管理者のパスワードを入力します。
- 9 (条件付き)Linux サテライトにイメージング役割が設定されている場合、アンインストール後にイメージを保持するよう求められます。イメージを保持するには、Enter を押します。
- 10 概要を確認し、Enter を押してアンインストールを開始します。  
ZENworks のアンインストールプログラムによって、次のアクションが実行されます。
  - ◆ すべてのサテライト役割をデバイスから削除します。
  - ◆ ZENworks コントロールセンターからデバイスのエントリを削除します ([環境設定] タブ > [サーバ階層] パネル)。
- 11 `zac satr` コマンドの実行によって、デバイスからサテライト役割が削除されていることを確認します。
- 12 (条件付き) エージェントをアンインストールし、管理ゾーンからデバイスを登録解除する場合は、83 ページの「ZENworks Adaptive Agent のアンインストールとゾーンからのデバイスの登録解除」に進みます。

## ZENworks Adaptive Agent のアンインストールとゾーンからのデバイスの登録解除

Linux サテライトを降格し、Linux サテライトからサテライト役割を削除したら、次の手順を実行して、管理ゾーンからデバイスを削除し、ZENworks Adaptive Agent をアンインストールします。

- 1 Linux サテライトのコンソールプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin/uninstall` を入力することによって、アンインストールプログラムを再度起動します。
- 2 ロケール番号を入力して、アンインストールプログラムを実行したいロケール (言語) を選択します。  
デフォルトのロケール (英語) を選択して、2 を入力するか Enter を押します。

---

**ヒント:** プロンプトが表示されたときに (Enter) キーを押すと、アンインストールプログラムはデフォルト (括弧内に表示されている値) を受け入れます。

---

- 3 概要テキストを読み、Enter を押します。
- 4 [アンインストールのタイプ] 画面で、<Enter> を押して [ゾーンからの登録解除とアンインストール] オプションを選択します。
- 5 [ZENworks 管理ゾーンの情報] 画面で、Linux サテライトが登録されているプライマリサーバの IP アドレスを入力します。
- 6 プライマリサーバがリスンするポート番号を入力します。

デフォルトポートの 443 を選択して、Enter を押します。

- 7 ゾーン管理者のユーザ名を入力します。

デフォルトのユーザ名 (Administrator) を使用するには、Enter を押します。

- 8 ゾーン管理者のパスワードを入力します。

- 9 概要を確認し、Enter を押してアンインストールを開始します。

ZENworks アンインストールプログラムによって、次のアクションが実行されます。

- ◆ ZENworks Adaptive Agent をアンインストールします。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3に関連するすべてのRPMをデバイスから削除します。
- ◆ ZENworks コントロールセンターからデバイスオブジェクトを削除します ([デバイス] タブ > [管理対象] タブ > [サーバ] フォルダ)。

---

注:(条件付き) アンインストールが失敗する場合は、次のログファイルを参照してください。

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks\_Satellite\_Server\_Uninstalltimestamp.xml
  - ◆ /tmp/err.log
- 

## 7.4.2 ローカルアンインストール

ローカルアンインストールオプションは、ZENworks Adaptive Agent のみをアンインストールします。

- 1 Linux サテライトをアンインストールする権限があることを確認してください。

ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント] > [全般])。

- 2 Linux サテライトコンソールプロンプトで、/opt/novell/zenworks/bin/uninstall と入力してアンインストールプログラムを起動します。
- 3 ロケール番号を入力して、アンインストールプログラムを実行したいロケール(言語)を選択します。

デフォルトのロケール(英語)を選択して、2を入力するか Enter を押します。

---

ヒント:プロンプトが表示されたときに(Enter)キーを押すと、アンインストールプログラムはデフォルト(括弧内に表示されている値)を受け入れます。

---

- 4 概要テキストを読み、Enter を押します。
- 5 [アンインストールのタイプ] 画面で、2を入力して [ローカルアンインストール] オプションを選択し、Enter をもう一度押して選択を確定します。
- 6 (条件付き)Linux サテライトにイメージング役割が設定されている場合、アンインストール後にイメージを保持するよう求められます。イメージを保持するには、Enter を押します。
- 7 概要を確認し、Enter を押してアンインストールを開始します。

ZENworks アンインストールプログラムは、Linux サテライトに関連するすべてのRPMを削除して、ZENworks Adaptive Agent をアンインストールします。

**8** (条件付き) アンインストールが失敗した場合は、次のログファイルを参照してください。

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks\_Satellite\_Server\_Uninstalltimestamp.xml
- ◆ /tmp/err.log

ZENworks Adaptive Agent をアンインストールした後、Linux デバイスオブジェクトは ZENworks コントロールセンターに表示されたままです ([環境設定] タブ > [サーバ階層] パネル)。これは、役割に関連するすべてのパッケージと RPM がデバイスから削除されても、すべてのサテライト役割があるためです。オブジェクトを削除するには、ZENworks コントロールセンターで次のことを実行します。

- 1** サテライトに割り当てられた役割を削除します。  
役割の削除方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[サーバ階層からのサテライトの削除](#)」を参照してください。
- 2** [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順にクリックします。
- 3** Linux サーバの横にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。



# インストール実行可能引数

# A

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 をインストールするには、インストール DVD のルートにある実行可能ファイル `setup.exe` および `setup.sh` で、次の引数を使用できます。これらのファイルはコマンドラインから実行できます。

権限の問題が発生しないように、`setup.sh` を指定して `sh` コマンドを使用する必要があります。

表 A-1 インストール実行可能引数

引数	長いフォーム	説明
-e	--console	(Linux のみ) コマンドラインインストールを強制します。
-l	--database-location	カスタム OEM (組み込み) データベースディレクトリを指定します。
-c	--create-db	データベース管理ツールを起動します。 これは、-o 引数と同時に使用することはできません。
-o	--sysbase-oem	インストールプログラムによって設定されていない OEM データベースを認証します。これによりインストールプログラムが、通常のデータベースオプションの代わりに外部データベースに必要なデータベースオプションのみを表示するようになります。 これは、-c 引数と同時に使用することはできません。
-s	--silent	-f 引数と一緒に使用されない場合は、編集、名前変更、および別のサーバへの無干渉インストールに使用するレスポンスファイル (.properties ファイル名拡張子付き) を作成するために実行しているインストールが実行されます。 -f 引数と一緒に使用された場合は、-f 引数と一緒に指定したレスポンスファイルを使用してサーバ上での無干渉インストールが開始されます。
-f [ファイル名] --property-file [ファイル名へのパス]		-s 引数と一緒に使用して、指定したレスポンスファイルを使用して無干渉 (サイレント) インストールを実行します。 レスポンスファイルを指定しない、またはパスまたはファイル名が正しくない場合は、デフォルトの非サイレント GUI またはコマンドラインインストールが代わりに使用されます。

次に例を示します。

- ◆ Linux サーバ上でコマンドラインインストールを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
sh unzip_location/Disk1/setup.sh -e
```

- ◆ データベースディレクトリを指定するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -l d:\databases\sybase
```

- ◆ レスポンスファイルを作成するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -s
```

- ◆ 無干渉インストールを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -s -f c:\temp\myinstall_1.properties
```

# トラブルシューティング

# B

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 のインストール時またはアンインストール時に発生する可能性のある問題の解決方法を説明します。

- ◆ 89 ページのセクション B.1 「インストールのトラブルシューティング」
- ◆ 94 ページのセクション B.2 「アンインストールのエラーメッセージ」

## B.1 インストールのトラブルシューティング

このセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール時に発生する可能性がある問題の解決方法を示します。

- ◆ 89 ページの「64 ビット版 Windows Server 2003 および 64 ビット版 Windows Server 2008 で、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールが失敗する場合があります」
- ◆ 90 ページの「Linux デバイスのルートディレクトリからインストールすると、自己署名証明書の作成に失敗する」
- ◆ 90 ページの「ZENworks サーバの Oracle データベースへの設定が失敗する」
- ◆ 91 ページの「ZENworks10 Configuration Management SP3 インストールプログラムを実行する Windows デバイスとのリモートデスクトップセッションを確立できない」
- ◆ 91 ページの「2 つ目のサーバをインストールするとエラーメッセージが表示される」
- ◆ 91 ページの「Linux の Mono インストールが失敗する」
- ◆ 91 ページの「HotSpot 仮想マシンによって検出されたエラーのために ConfigureAction が失敗する」
- ◆ 92 ページの「ZENworks がインストールされているデバイス上で Novell Client 32 から NetIdentity をインストールできない」
- ◆ 93 ページの「外部 Sybas データベースを使用して ZENworks サーバを設定すると、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールが失敗する」
- ◆ 93 ページの「英語以外の言語を使用するプライマリサーバの Web ブラウザで、ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールのログを開くことができない」

### 64 ビット版 Windows Server 2003 および 64 ビット版 Windows Server 2008 で、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールが失敗する場合があります

ソース：ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明：ZENworks 10 Configuration Management SP3 を 64 ビット版 Windows Server 2003 または 64 ビット版 Windows Server 2008 にインストールしようとする、Windows インストーラ (msiexec) ユーティリティのためにインストールが失敗またはハングすることがあります。インストールログには次のメッセージが記録されます。

```
Msiexec returned 1603:
```

考えられる原因：デバイスに Windows インストーラ 4.5 がインストールされていない。

アクション: 64 ビット版 Windows Server 2003 または 64 ビット版 Windows Server 2008 デバイスで、次のことを実行します。

- 1 Windows インストーラ (msiexec) ユーティリティを Windows インストーラ 4.5 以降にアップグレードします。Windows インストーラ 4.5 へのアップグレード方法については、[Microsoft ヘルプとサポート Web サイト \(http://support.microsoft.com/KB/942288\)](http://support.microsoft.com/KB/942288) を参照してください。
- 2 ZENworks 10 Configuration Management SP3 を再インストールします。
  - 2a Novell ZENworks 10 インストール DVD で、install\disk\instdata\windows\vm に移動して次のコマンドを実行します。

```
install.exe -Dzenworks.configure.force=true
```
  - 2b 表示されるインストールウィザードの指示に従ってください。  
詳細については、[51 ページのセクション 4.1 「インストールの実行」](#) を参照してください。

### Linux デバイスのルートディレクトリからインストールすると、自己署名証明書の作成に失敗する

ソース: ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

アクション: Linux デバイスで、ZENworks 10 インストールの ISO イメージをダウンロードして、すべてのユーザが読み込みパーミッションと実行パーミッションを持つ一時的な場所にコピーします。

### ZENworks サーバの Oracle データベースへの設定が失敗する

ソース: ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明: NLS\_CHARACTERSET パラメータが AL32UTF8 に設定されず、NLS\_NCHAR\_CHARACTERSET パラメータが AL16UTF16 に設定されず、次のエラーメッセージが表示されてデータベースインストールが失敗します。

```
Failed to run the sql script: localization-updater.sql,
message:Failed to execute the SQL command: insert into
zLocalizedMessage(messageid,lang,messagestr)
values('POLICYHANDLERS.EPE.INVALID_VALUE_FORMAT','fr','La
stratÃ©gie {0} n''a
pas pu Ã©tre appliquÃ©e du fait que la valeur de la variable
"{1}" n''est pas
dans un format valide. '),
message:ORA-00600: internal error code, arguments:
[ktfbbsearch-7], [8], [],
[], [], [], [], []
```

アクション: NLS\_CHARACTERSET パラメータを AL32UTF8 に、NLS\_NCHAR\_CHARACTERSET パラメータを AL16UTF16 に設定します。

文字セットパラメータが推奨値で設定されていることを確認するには、データベースプロンプトで次のクエリを実行します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where  
parameter like '%CHARACTERSET%';
```

## ZENworks10 Configuration Management SP3 インストールプログラムを実行する Windows デバイスとのリモートデスクトップセッションを確立できない

ソース：ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明：リモートデスクトップ接続を使用して ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールプログラムが実行されている Windows サーバと接続しようとする、次のエラーメッセージでセッションが終了します。

```
The RDP protocol component "DATA ENCRYPTION" detected an  
error in the protocol stream and has disconnected the client.
```

アクション：[Microsoft ヘルプとサポート Web サイト \(http://support.microsoft.com/kb/323497\)](http://support.microsoft.com/kb/323497) を参照してください。

## 2 つ目のサーバをインストールするとエラーメッセージが表示される

ソース：ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明：管理ゾーンに 2 つ目のサーバをインストールすると、インストールの最後に、メッセージの一部に次のテキストが含まれたエラーメッセージが表示される場合があります。

```
... FatalInstallException Name is null
```

ただし、それ以外の点ではインストールは正しく完了している可能性があります。

このエラーは、プログラムがサーバを再設定する必要があると判断してしまったために（実際にはその必要はありません）、誤って表示されます。

アクション：インストールのログファイルを確認します。このエラーメッセージに関連するエラーがない場合は、無視して構いません。

## Linux の Mono インストールが失敗する

ソース：ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

考えられる原因：ZENworks 10 インストール ISO イメージの抽出先ディレクトリにスペースがあり、ZENworks とバンドルした Mono のインストールを選択した場合は、Linux での Mono インストールが失敗する。

アクション：インストール ISO イメージを展開する先のディレクトリにスペースが含まれていないことを確認します。

## HotSpot 仮想マシンによって検出されたエラーのために ConfigureAction が失敗する

ソース：ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明: Linux\* デバイスに最初のプライマリサーバをインストールする場合や、データベース設定プロセスの最後にエラーが発生し、続行するか、それともロールバックするかを選択するオプションが表示された場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Install_[date].log.xml`にあるログファイルを確認してください。次に指定されているエラーが表示された場合は、インストールを続行しても問題ありません。

```
ConfigureAction failed!:
```

```
select tableName, internalName, defaultValue from Adf where
inUse =?#
An unexpected error has been detected by HotSpot Virtual
Machine:
#SIGSEGV (0xb) at pc=0xb7f6e340, pid=11887, tid=2284317600
#
#Java VM: Java HotSpot(TM) Server VM (1.5.0_11-b03 mixed
mode)

#Problematic frame:
#C [libpthread.so.0+0x7340] __pthread_mutex_lock+0x20
```

アクション: このエラーメッセージは無視してください。

## ZENworks がインストールされているデバイス上で Novell Client 32 から NetIdentity をインストールできない

ソース: ZENworks 10 Configuration ManagementSP3、インストール

説明: ZENworks Configuration Management がインストールされているデバイスに、Novell Client32™ に付属の NetIdentity エージェントをインストールすると、次のエラーメッセージが表示されてインストールが失敗します。

```
An incompatible version of Novell ZENworks Desktop Management
Agent has been detected
```

考えられる原因: ZENworks のインストール前に NetIdentity エージェントがインストールされていない。

アクション: 以下を実行します。

- 1 ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールします。

ZENworks Configuration Management のアンインストール方法については、[75 ページの第 7 章「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」](#)を参照してください。

- 2 Novell Client32 から NetIdentity エージェントをインストールします。

- 3 ZENworks Configuration Management をインストールします。

ZENworks Configuration Management のインストール方法については、[51 ページの第 4 章「ZENworks サーバのインストール」](#)を参照してください。

## 外部 Sybas データベースを使用して ZENworks サーバを設定すると、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールが失敗する

ソース： ZENworks 10 Configuration Management SP3、インストール

説明： ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール時に、リモート OEM Sybase データベースまたはリモート Sybase SQL Anywhere データベースのどちらかを使用して ZENworks サーバを設定することを選択すると、インストールが失敗し、次のメッセージがインストールログに記録されます。

```
Caused by:  
com.mchange.v2.resourcepool.CannotAcquireResourceException: A  
ResourcePool could not acquire a resource from its primary  
factory or source.
```

考えられる原因： 指定した外部 Sybase データベースのサーバ名が正しくない。

アクション： ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールウィザードを再起動して、正しい外部データベースサーバの詳細を指定します。

## 英語以外の言語を使用するプライマリサーバの Web ブラウザで、ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールのログを開くことができない

ソース： ZENworks 10 Configuration Management SP3、インストール

説明： 英語以外の言語を使用し、ZENworks 10 Configuration Management SP3 がインストールされているプライマリサーバで、Web ブラウザを使用してインストールログを開くことができません。ただし、インストールログは、テキストエディタでなら開くことができます。

インストールログは、Linux では /var/opt/novell/log/zenworks/、Windows では *zenworks\_installation\_directory*\novell\zenworks\logs にあります。

アクション： Web ブラウザでインストールログ (.xml) を開く前に、すべてのインストール LogViewer ファイルのエンコーディングを変更します。

- 1 テキストエディタを使用して、次の LogViewer ファイルの 1 つを開きます。これらのファイルは、Linux では /var/opt/novell/log/zenworks/logviewer on Linux、Windows では *zenworks\_installation\_directory*\novell\zenworks\logs\logviewer にあります。

- ◆ message.xml
- ◆ sarissa.js
- ◆ zenworks\_log.html
- ◆ zenworks\_log.js
- ◆ zenworks\_log.xml
- ◆ zenworks\_log\_text.xml

- 2 [ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [エンコーディング] リストで、[UTF-8] を選択してから、[保存] をクリックします。

---

**注:** ファイル名とファイルの種類は変更しないでください。

---

- 4 残りの LogViewer ファイルに関して、[ステップ 1](#) から [ステップ 3](#) までの手順を繰り返します。

## B.2 アンインストールのエラーメッセージ

このセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のアンインストール時に生成される可能性のあるエラーメッセージを詳細に説明します。

- ◆ 94 ページの「管理ゾーンにデバイスが存在しないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zcm10> を参照してください。」
- ◆ 94 ページの「アンインストーラがデバイスに割り当てられた役割を識別できないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zcm10> を参照してください。」
- ◆ 94 ページの「OES Linux 上でアンインストールが完了すると、正しくないエラーメッセージが表示される」

**管理ゾーンにデバイスが存在しないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zcm10> を参照してください。**

ソース: ZENworks 10 Configuration Management SP3、Linux サテライトでのアンインストール

考えられる原因: Linux サテライトが登録されているプライマリサーバの指定された IP アドレスが正しくありません。

アクション: Linux サテライトが登録されているプライマリサーバに、正しい IP アドレスを指定します。

**アンインストーラがデバイスに割り当てられた役割を識別できないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zcm10> を参照してください。**

ソース: ZENworks 10 Configuration Management SP3、Linux サテライトでのアンインストール

アクション: Linux サテライトが登録されているプライマリサーバが稼働しており、サーバが Linux サテライトからアクセスできることを確認します。

アクション: 問題の詳細は、次のログを参照してください。

```
/var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks_Satellite_Servertimestamp.xml  
/tmp/err.log
```

アクション: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にお問い合わせください。

**OES Linux 上でアンインストールが完了すると、正しくないエラーメッセージが表示される**

ソース: ZENworks 10 Configuration Management SP3、Open Enterprise Server 2 (OES Linux) でのアンインストール

説明: OES Linux でアンインストールが完了すると、次のエラーメッセージがコンソールログに記録されます。

```
The following error occurred during the uninstall:  
WARN_PACKAGES_NOT_REMOVED
```

アクション: なし。このエラーメッセージは無視してください。



# マニュアルの更新

このセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 の最初のリリース以降に、この『インストールガイド』に加えられたドキュメント内容の変更について説明します。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

マニュアルは、HTML と PDF の 2 つの形式で Web 上で提供されています。HTML および PDF のマニュアルはいずれもこの項に挙げるマニュアルの変更内容を反映した最新の状態になっています。

参照している PDF ドキュメントが最新であるかどうかは、タイトルページに記載された発行日で確認できます。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ [97 ページのセクション C.1 「2010 年 3 月 30 日 : SP3 \(10.3\)」](#)

## C.1 2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)

次のセクションが更新されました。

場所	更新
<a href="#">9 ページのセクション 1.1 「プライマリサーバ要件」</a>	<p>ポート 443 が CASA 認証に使用されるようになりました。</p> <p>Windows Server 2008 R2 がサポートされるようになりました。</p>
<a href="#">19 ページのセクション 1.3 「管理ゾーンのバージョン要件」</a>	このセクション全体をアップデートしました。
<a href="#">22 ページのセクション 1.6 「管理対象デバイス要件」</a>	<p>Windows Server 2008 R2 と Windows 7 を追加サポートの管理対象デバイス要件として、セクションを更新しました。</p> <p>次の管理対象デバイス情報を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 管理対象デバイス名は 32 文字までです。デバイス名が 32 文字を超える場合、このデバイスはインベントリに含まれません。また、デバイス名が固有で、デバイスがインベントリレポートで適切に認識されるようにしてください。</li> </ul>
<a href="#">26 ページのセクション 1.7 「インベントリのみデバイス要件」</a>	Windows 7 を追加サポートのインベントリのみデバイス要件として、セクションを更新しました。
<a href="#">31 ページの第 2 章 「その他の ZENworks 製品との共存」</a>	ZENworks 10 と他の ZENworks 製品との共存に関する情報を追加しました。
<a href="#">49 ページのセクション 3.3.5 「Mono 2.0.1-1.17 の SLES 11 へのインストール」</a>	このセクションを更新して、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 11 への Mono 2.0.1-1.17 のインストールに関する情報を記載しました。

場所	更新
12 ページの「Mono (SLES 11 のみ)」	推奨の Mono <sup>®</sup> バージョンと RPM パッケージを記載して、このセクションを更新しました。
71 ページの第 5 章「ZENworks Adaptive Agent の Windows へのインストール」	ZENworks Desktop Agent (ZENworks 7 Desktop Management または ZENworks for Desktops 4.x) がすでにインストールされているデバイスでの ZENworks Adaptive Agent の使用情報を追加しました。
73 ページの第 6 章「ZENworks Adaptive Agent の Linux へのインストール」	Linux Adaptive Agent パッケージを Linux デバイスにインストールする方法を記載したセクションを新たに追加しました。
76 ページのセクション 7.2「Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール」	Windows 管理対象デバイスからのレジストリエントリの手動削除に関する情報を含む 80 ページの <b>ステップ 6</b> を新たに追加しました。
82 ページのセクション 7.4.1「ゾーンレベルでのアンインストール」	ゾーンレベルでのアンインストールで Linux サテライトをアンインストールする手順を更新しました。
89 ページの付録 B「トラブルシューティング」	次のトラブルシューティングシナリオを新たに追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 94 ページの「OES Linux 上でアンインストールが完了すると、正しくないエラーメッセージが表示される」</li> <li>◆ 93 ページの「外部 Sybas データベースを使用して ZENworks サーバを設定すると、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストールが失敗する」</li> <li>◆ 93 ページの「英語以外の言語を使用するプライマリサーバの Web ブラウザで、ZENworks 10 Configuration Management SP3 インストールのログを開くことができない」</li> </ul>